中学生の「ありがとう」の手紙

令和５年度

笑顔と笑顔のおつきあい
呉信用金庫

『ありがとうの手紙』文集について

呉信用金庫　営業統括本部

くれしん『ありがとうの手紙』は、平成十九年の六月十五日「信用金庫の日」の全国イベントとして開始し、その後中学生を対象とした当金庫独自のイベントとして続けてきました。多感な中学生に「ありがとう」という感謝の窓から自分の内と外を眺めてもらう機会になればというのが、主催者の願いです。

「くれしん『ありがとうの手紙』は年を重ねるごとに充実したものとなり、応募総数も増加してまいりました。今年は域内三十二の中学校から、一千百四十二作品の応募をいただきました。ご協力いただいた各中学校の生徒の皆さんと先生方に、こころよりお礼申しあげます。

選考につきましては、呉市教育委員会学校教育課の岩城様および広島文化学園大学の山内学部長、呉工業高等専門学校の上芝准教授・花澤講師による厳正な選考を行い、優秀賞十作品、努力賞四十作品を選出しました。ご応募いただいた作品は文集として編集しました。本文集が皆様方の青春の一ページを彩ることを祈念します。

（令和五年十二月二十一日）

目次

【優秀賞】

新谷　功揮（呉市立音戸中学校）・1
内田　早紀（呉市立昭和北中学校）・3
豊島　叶愛（呉市立天応学園（中学校））・5
神谷　晏李（呉市立広中央学校）・7
新本　さくら（呉市立広中央学校）・9
松島　史華（呉市立横路中学校）・11
大野　彩人（呉市立和庄中学校）・13
藤田　智充（竹原市立竹原中学校）・15
住廣　采音（広島県立広島中学校）・17
山下　香織（広島県立広島中学校）・19

【努力賞】

小林　千笑（大崎上島町立大崎上島中学校）・21
井田　歩花（海田町立海田中学校）・23
松村　優花（熊野町立熊野東中学校）・24
荻　康介（呉市立音戸中学校）・26
河本　凛華（呉市立昭和中学校）・28
三輪　明由未（呉市立昭和中学校）・30
野口　琶月（呉市立昭和北中学校）・31
藤吉　陽香（呉市立昭和北中学校）・32
河部　心優（呉市立天応学園（中学校））・33
田尻　希心（呉市立天応学園（中学校））・34
本保　侑弥（呉市立天応学園（中学校））・36
池田　真菜美（呉市立仁方中学校）・38
平本　ほのか（呉市立仁方中学校）・40
宮原　虹歩（呉市立仁方中学校）・42
高山　心緒（呉市立広中央中学校）・44
堂原　美羽（呉市立広中央中学校）・46
白石　莉愛（呉市立宮原中学校）・48
稲葉　弥桜（呉市立横路中学校）・49
齋藤　奏愛（呉市立和庄中学校）・51
下花　奏太（呉市立和庄中学校）・53
高橋　のな（呉市立和庄中学校）・55
谷田　まどか（呉市立和庄中学校）・57
原本　昇之介（呉市立和庄中学校）・59
藤森　莉子（呉市立和庄中学校）・61
寄能　佳苗（竹原市立竹原中学校）・63
新満　萌生（竹原市立竹原中学校）・65
友岡　美優（竹原市立竹原中学校）・66
福田　颯（竹原市立竹原中学校）・68
藤田　真奈（竹原市立竹原中学校）・69
松岡　心愛（竹原市立竹原中学校）・70
水野　凌太（竹原市立竹原中学校）・72
倉岡　心桜（竹原市立忠海学園（中学校））・74
小林　千彩希（東広島市立松賀中学校）・76
冨原　魁二（東広島市立松賀中学校）・78
馬場　めぐみ（東広島市立松賀中学校）・79
村山　花歩（東広島市立松賀中学校）・80
浅野　愛（広島県立叡智学園中学校）・82
今川　奏佑（広島県立広島中学校）・84
髙見　悠華（広島県立広島中学校）・85
平田　華暖（広島県立広島中学校）・87

【選考委員】

呉市教育委員会　学校教育課　岩城　祥子
広島文化学園大学　学部長　山内　京子
呉工業高等専門学校　准教授　上芝　令子
呉工業高等専門学校　講師　花澤　哲文

優秀賞

「そろばんの先生へ」

呉市立音戸中学校　新谷　功揮

そろばん先生へ

先生、お元気ですか。６年生の時まで先生にそろばんを習っていた新谷です。あれから１年以上たって、僕は中学２年生になりました。陸上部に入って、部活も勉強も頑張っています。

僕が先生の教室に通いはじめたのは、小学３年生の時でした。算数の計算がとても苦手だった僕は、初めて手にしたそろばんを見て、こんなので本当に計算なんてできるのかなと正直とても不安だったのを覚えています。

でも先生は、

「少しずつでも毎日続けることが大事。そしたら絶対できるようになるけん。」

と、ニコっと笑って励ましてくださいました。

先生の教え方はとてもおもしろくて分かりやすくて、僕はそろばんに行く日がだんだん楽しみになっていきました。そして、初めての10級と９級の検定試験に合格した時は、先生も一緒に喜んでくれて、とてもうれしかったです。

僕は、

「いつか、１級に合格するぞ。」

と大きな目標もできました。

そして、６年生で２級に合格し、目標まであと少しの時、先生からそろばん教室を閉めることを伝えられました。先生は、

「功くん、ごめんね。ごめんね。１級を受ける前なのに、本当にごめんね。」

と、何度も何度も言っておられましたね。

僕はその時、突然のことでびっくりしたけど、１級までいかなかったことよりも、大好きな先生の体が大丈夫なのか心配な気持ちの方がとても強くて、僕たちのことは心配しないで、早く病気を治してほしいと願っていました。

あれから僕も中学生になりました。先生、僕は、先生に大切な報告があります。なんと１級に合格しました。

先生が教室を閉めてからも、僕は、１級があきらめきれなくて、毎日少しずつ練習することを続けました。１人だと怠けてしまいそうな日もあったけど、先生も１人で病気と戦っているんだから、僕もやってやるぞという気持ちで頑張りました。

そして、合格の発表を見た時はすごくうれしくて、続けてきて良かったと、心から思いました。先生のおかげです。ありがとうございました。先生が毎日続けることの大切さを教えてくださったこと、とても感謝しています。

中学校では、勉強が難しくなりましたが、僕の一番得意な科目は数学です。周りの人からも、計算が早いねと言ってもらえます。そろばんを習って、本当に良かったです。

こんど、先生が元気になったら、合格証書を持って報告に行かせて下さい。

新谷　功揮

優秀賞

「私を変えてくれた人」

呉市立昭和北中学校　内田　早紀

私にはまだ、感謝の気持ち「ありがとう」を伝えられていない人がいます。大げさですが、その人が私の人生を変えてくれたといってもいいくらいです。その人は私の小学三年生の時の担任の先生です。

私は小さな頃から人見知りで自分からは絶対に人に話しかけませんでした。そのため、私の周りにはあまり友達はおらず、自分が友達になりたいと思った人ともうまく友達になれませんでした。そんな静かな生活のまま私は小学三年生になりました。

そこで出会ったのは…。明るくて活発でおもしろい先生。

その先生は「発表は怖くない。失敗したって平気だし何も悪いことはない。失敗は成功のもと。」とよく言っていました。

それに、その先生は私たちの手本をするように学年集会などでもよく発言していました。発言している先生やクラスのみんなは生き生きしていて楽しそうでした。私は次第に自分から発言できたらどんなに楽しいだろうと思うようになりました。

そしてある日、ついに手を挙げ発表をしました。そのときの晴れ晴れとした気持ちは今でも覚えています。発表ってこんなに簡単な事だったんだとすごくスッキリしました。自分でもびっくりですが一度発表するとエンジンがかかったのかどんどん発言するようになりました。学級委員にもなり、毎日が楽しくて楽しくてしかたありませんでした。

そんなとき、二学期の始業式に自分の作文を全校生徒の前で発表する機会がありました。三年生の中で一人だったので自分にはならないだろうと思いつつも、もしかしたらという思いもあり、立候補しました。

そしてなんと、私になったのです。まさかのまさかでした。本当にびっくりして…。その時の気持ちはとても言葉では表せません。

その日から発表と、文章暗記の練習が始まりました。なんと、メモを見てはいけないのだから文章の暗記には苦労しました。夏休みにも練習をしました。

そして当日。もう朝から心臓が太鼓のように鳴り響き、水も喉を通らず、ガチガチに緊張していました。

練習の成果もあり、発表は大成功。クラスのみんなにた

くさんほめられ、友達も増え、もう嬉しいことしかありませんでした。もちろん今までの事は全部、先生無しではできませんでした。それなのに私は「ありがとう」を伝えられませんでした。そのことにとても後悔しています。

少し遅いけれど今伝えます。先生がいなかったら今でも静かに人見知りで生活をしていたと思います。

私のことを応援してくれて、励ましたくれてありがとうございました。

そして何より私自身を、私の人生を変えてくれて、本当にありがとうございました。

優秀賞

「汗を流す父」

呉市立天応学園（中学校）　豊島　叶愛

「ただいま。」

ここ最近、父はものすごい汗をかきながら帰宅してきます。

「おかえりー。」

そんな父を見て、私は少し驚いて（今日も仕事が大変だったんだな。）と見受けました。

父の仕事はものを修理したり、造ったりすることです。大工とは少し違うらしいのですがとても苦労する仕事だということを母から聞いたことがありました。そのことを思い出したので、父の額に浮かび上がった汗を見て、（だからすごく汗をかくんだ。）と私は納得しました。

父はお風呂からあがった後、クーラーの前に立ち「疲れたー。」と言いながら涼んでいました。その時、父のうでにくっきりとついた日焼けの跡が目に入りました。

「日焼けめっちゃしとる。」

私は驚いてぼそっとつぶやきました。父は、

「うん、最近暑すぎるんよ。」

と言いました。くっきりとついた日焼けの跡から「長時間屋外で働いていた」ということに気がつきました。

今年の夏は全国的に平年より暑くなっているとニュースで報じていたので（外の活動は疲れるだろうな。）とついこの前考えていました。そしてこの時その「疲れること」を父はしてくれているということに気がつきました。また、「父はすごい」ととても強く感じました。

次の日も同じように父はものすごい汗をかきながら帰宅しました。昨日気がついたことを意識すると、ふっと臭った父の汗の臭いに胸がぎゅっとしました。（今日も仕事を頑張ってきてくれたんだ。）こんな暑い中、私たちのために苦労して働いてくれていると考えると、感謝の気持ちがこみあげてきました。

「おかえり。お疲れ様‼」

と思い切って言ってみました。直接伝えるのは少し照れくさかったので恥ずかしさの混ざった声になってしまったけれど、父は柔らかい笑顔で

「ただいま。」

と言ってくれたので（伝えてよかったな。）と安心しました。

このあいさつから私は、今日も父は汗を流しながら働いてくれているんだと意識を持つようになりました。

これからは頑張る父を応援しつつ、一緒にいる時間も、感謝の気持ちを持って過ごしていきたいです。

優秀賞

「お母さん、ありがとう」

呉市立広中央中学校　神谷　晏李

「ボーン・ボーン。」

という時計の音で目が覚めた。

「ここはどこ？。」

と、一瞬思ったが、祖母の家だ。

隣を見ると、祖父母と妹が寝ている。今日は私の誕生日で、母は夜勤だ。

「お母さん、どうしているかな。」

と、祖父母と妹を起こさない様に小声でつぶやいた。

母は、私と妹を、女手一つでここまで大きく、何不自由なく育ててくれた。私は、本当は母ともっと一緒に居て、胸の内を話したいが、いつも冷たく反抗してしまう。そんな自分が嫌いだ。

そう思いながら時計を見ると、夜中の二時だった。知らぬ間に涙が流れてきた。

「もう嫌だ。このままお母さんの所に行ってみようかな。」

と、思い窓を見るも外はまだ暗い。

また涙があふれて出てきた。

「止まれ！止まれ！」

と、思うが止まらない。枕に顔を伏せて泣いた。知らぬ間に朝になっていた。母が帰ってきたかと思い祖母に、

「もう帰ってきた？。」

と小声で言うと、

「まだだよ。後もう少し。」

と、返事があった。また、泣きそうになってしまう。それをグッとこらえ、

「あっ、そ。」

と、ごまかすために冷たく言った。

昨日、たくさん泣いたので、頭痛がしていた。今日から、母には優しく接しようと心に決めていた。

待ちに待った母が帰って来た。

「ただいま。」

と母の声が聞こえた。心が踊った。

精一杯の優しさをこめ、

「お帰り。お疲れ。」

と母に言った。しかし、

「お風呂入る。それから寝る。」

と、冷たい返事が返ってきた。母との会話が終わった瞬間

だった。
私は、
「うっ、うん。」
それしか言えなかった。
「お母さん、今日私の誕生日だよ。私、昨日会いたくて泣いたんだよ。」
と、話したい言葉をのみこみ、立ちつくしていた。そうすると母が
「あっ、起きたら誕生日プレゼント買いに行こうね。
と優しい声で言った。
「誕生日、覚えていてくれたんだ。」
と思い、嬉しかった。母の一言で泣きたい気持ちは、一気に吹き飛んだ。
　母には、本当に感謝している。母も辛い事や悲しい事も沢山あるだろう。仕事で疲れていても、妹がグズグズ言って困らせても、
「大丈夫・大丈夫。」
と、口ぐせの様に言い、私達を、安心させてくれる。私はそんな母が大好きだ。
　お母さんいつもありがとう。元気でいてね。

優秀賞

「ありがとう」

呉市立広中央中学校　新本　さくら

私のおじいちゃんは、熊本で漁師として働いています。広島から熊本は遠く、すぐ会える距離ではありませんが、おじいちゃんは魚をよく送ってくれます。太刀魚やタコ、どれもとっても美味しいです。

熊本にはよく、夏休みや冬休みに帰ります。おじいちゃんの家に行くと、

「おお、来たか。」

嬉しそうな顔をして、いつもの定位置に座っています。

おじいちゃんと喋っているとよく熊本弁がでて、あまり分からないけど、なんだか落ち着く声で気持ちが楽になります。癖のある笑い方をしていつも話を聞いてくれます。

おじいちゃんとお散歩をしたときは、お母さんの小さい頃の話や、恵比寿さんへお祈りに行ったり、何気ない時間が私は大好きです。

私の誕生日がくると、「おめでとう」とお手紙をくれます。ついでに私の好きなタコも送ってくれます。お礼の電話もすると、また嬉しそうに話を聞いてくれます。

今年の冬休みに、お姉ちゃんと初めて新幹線に乗って二人で帰りました。最初はとっても心細かったです。ですが、おじいちゃんのいる天草に行くと、おじいちゃんはまた嬉しそうに、

「おお、よく来た。」

そう言ってくれました。

新幹線で起きたことや最近のお母さんや弟の話をしました。おじいちゃんはそれもにこにことしながら最後まで聞いてくれました。

話をし終わったあとは近くにある、定食屋さんへと行きました。車海老の天ぷらを食べさせてもらってとっても美味しかったです。

でも、それがおじいちゃんと最後に食べたご飯でした。今年の七月十一日、おじいちゃんは息を引き取りました。それはとても突然でした。全く信じられなくて、（なんでじゃが。あんなに元気だったのに。本当に信じられない。）

その日の夜、急いで熊本へ帰りました。みんなやっぱり暗くて、突然のことでバタバタしていました。

おじいちゃん家に行くと、お棺に入ったおじいちゃんが

いました。お母さんや身内の人達は、
「ほんとに寝てるみたい。いつか起きてきそうだよ。」
そうおじいちゃんの顔を見ながら話していました。
（本当にそうだったらいいのに。）
私はずっと思っていました。
次の日、お通夜がありました。沢山の人が来て、みんな涙を流しながらおじいちゃんの姿を見ていました。おじいちゃんはほんとに愛されているなと改めて思いました。
おじいちゃんは亡くなる前日、今年一番の大漁だったという話をしていたと聞きました。いつも家の前に架かる二号橋を見ていて、仲間の船が見えると笑って手を振っていました。
おじいちゃんは六十一年という人生で、もっと色んな姿を見て欲しかったなと思いました。部活のバスケの試合、頑張っているところを見てほしかった。中学生になったから制服姿を見てほしかった。そして勉強が難しいこと、友達のことをいっぱい話したかった。おじいちゃんの船、美勇丸に乗って魚を釣って、海にいるイルカをみて、潮風を一緒に浴びたかった。お姉ちゃんの身長を抜かしそうだから、「背伸びたね」って言ってもらいたかった。おじいちゃんにしてほしいこと、見てほしいもの、沢山ありました。
おじいちゃんは家族思いで、いつも笑顔で帰ってくる場所をつくってくれていました。誰に対しても優しく、人とのご縁を大切にしているあたたかい人でした。
私は恥ずかしがって、ちゃんとおじいちゃんに、ありがとうを伝えていません。おじいちゃんの孫で，本当に幸せで、今まで可愛がってくれて、いつも居場所を作っていてくれて、いつも笑顔で出迎えてくれてありがとう。
また熊本に帰った時、いつもの定位置にじぃが座って、笑顔で出迎えてもらえなくなるのは本当に寂しいけど、私がじぃのような存在になって、みんなを包み込むような、そんなあたたかくて優しいじぃのようになりたいです。
自慢の孫になるから見守っていてください。じぃの孫でほんとによかったよ。
いつもありがとう。

優秀賞

「ありがとうと伝えたい」

呉市立横路中学校　松島　史華

私には気になっていることがある。それは、小学校四年生の時に、助けてもらったお礼が出来ていないことだ。中学生になった今でも時々思い出すことがある。

ある日の放課後、友達と遊んでいたら、友達のAちゃんが「〇〇の公園に行こうよ。」と言って、少し遠い所に行くことになった。最初は、おしゃべりしながら行っていたけど、途中から競争しようということになって、細い道を走っていた。すると、段差につまずいて転げてしまった。足から、大量の血が出てきて、痛くて、涙が出そうになった。でも我まんした。

動くと痛くて、どうしようと困っていたら、一人のおじさんが「うわー、これは痛そうだなぁ。」と言って近づいてきた。おじさんは、顔にシワを寄せて、「大丈夫か？」と言った。私は、何も答えることが出来ず、ただ顔を横に振っていた。それを見たおじさんは「ちょっとついておいで」と手招きをした。私は、友達の肩を借りながらおじさんについて行った。最初はついて行って良いのかこわかったけど、どうしたら良いのか分からなくて、ついて行くことにした。

マンションのロビーらしき所で、おじさんが「ここに座って」と言った。今から、何が始まるんだろうと不安だったけど、友達がそばにいてくれたので、安心した。おじさんは、私たちをこわがらせないようにしてくれたのか、ずっと話をしてくれていた。おじさんは救急箱を使って足を手当てしてくれた。なんでか分からないけど、我まんしていた涙がこぼれた。この涙は、後で思うとおじさんの優しさと、家のような安心感で緊張していた気持ちが和らいだからだと思う。

その後、おじさんに「ありがとうございます。」と伝えて、友達に付き添ってもらって家に帰った。家に帰ったら、すぐにこのことをお母さんに伝え、手当てしてもらった傷を見せた。お母さんはびっくりして、「すごい傷で大変だったねぇ。でも、すごく丁ねいに手当てしてもらっているから、本当によかった」と言った。お母さんの反応を見て、すごいことをしてもらったんだと、あらためて思って、もっとお礼の気持ちを伝えたいと思った。

その日の夕方、お母さんを連れてもう一度会いに行こう

と思った。お母さんにも、あのおじさんに会ってもらいたいと思ったからだ。あのおじさんいるかなぁと緊張した。手当てをしてもらったところまで行ったけど、誰にも会わなかった。少し残念だった。お母さんが「また今度にしよう」と言って、帰ることにした。でも、数日後もう一度、会いに行こうかと思ったけど、日にちが空くと恥ずかしくなって、行くことが出来なかった。

今でも心に残っているのは、あの時「ありがとう」を伝えられなかった後悔がある。今では、顔もはっきり覚えていないし、相手も忘れているかもしれないけど、もう一度「ありがとう」を伝えに行きたい。と、今は思う。

優秀賞

「お父さんへ」

呉市立和庄中学校　大野　彩人

今年で広島に住んでから五年も経ちます。私が小学二年生のときにお母さんが他界してから、香川から広島に家を移して、男手一つで育ててくれました。

私一人だけでなく、姉が二人もいたのに一人で支えてくれたお父さんの凄さや苦労は、私が思っている十倍以上のものだと思います。

当たり前にご飯を食べることが出来て、当たり前に友達と会話することができる。

全部当たり前のことだと思っていたけど、それはお父さんが仕事を頑張り、お父さんが料理を作ってくれていたからでした。

いつも早めに仕事を終わらせ、帰ってすぐにご飯を作る。別に何かもらえるわけでもないのに、こんなにも私たちのことを思って行動してくれていました。

小さいころは何も感じませんでしたが、今になって考えてみれば慣れていない家事をしながら、八時ごろまで仕事をして、子供を三人育てることの大変さがわかります。いつ休むのかわからないほどの激務でした。

「あたり前」の幸せを教えてくれたお父さんには、本当に感謝してもしきれないほどの恩があります。

何回もけんかして、叱られて、迷惑をかけたと思います。でも、迷惑をかけても、いつも笑顔で許してくれてありがとうございます。

たまに温泉や遊園地、遠いところの旅行にも連れていってくれる。

私は一度も片親がいやだとは思いませんでした。

そう思えたのも、お父さんの努力があったからでした。

私が大人になったら、お父さんみたいな立派な人間になりたいと思えるほど凄いです。

どんなに仕事や家事が忙しくても、私たちのことを第一に考えてくれます。それに、私たちがやりたいと言ったことをさせてくれます。

だから、私はお父さんのことをとても尊敬しています。

誰が何を言おうと、お父さんは私にかけがえのない唯一無二の人です。

そんなお父さんの、忘れられない言葉があります。

その言葉は、

「早くみんなの，成人した姿を見てみたい。」です。
その言葉を聞いて、私が成人したら、
「二十年も、頑張って育ててくれて、ありがとう。」
と言うことにしました。

優秀賞

「みんな『ありがとう』」

竹原市立竹原中学校　藤田　智充

先生へ、上笹先生を始め、僕を助けてくれている先生方、いつもありがとう。

友達へ、いつも体調を崩したり、動けない僕を気に掛けて心配してくれてありがとう。そして、ごめんね。

僕は余り身体が丈夫ではありません。鼻血がよく出ます。松葉杖があれば歩けますが、なしでは歩く事ができません。体調が悪い時は車イスを使って移動しています。

その為、僕は人の助けをとても必要としています。でも、それを当たり前とは思っていません。できる限り、自分の事は自分でやりたいし、したいです。でも身体が言う事を聞いてくれません。

そんな時、学校を休む事もあります。学校に行きたい気持ちはあっても、身体が動かず、くやしくて涙が出る事も沢山あります。

そんな落ち込んで寝込んだ日の夕方、上笹先生が電話をくれ、時間割りを教えてくれ、体調を気にしてくれます。その電話で、僕は身体は言う事をきいてくれなくても、心は元気が出ます。明日は絶対元気になって、学校へ行くぞ、と強く感じます。なかなか難しいんですが、それでも凄く力になっています。

休んだ翌日、少し教室に入るのに緊張したりします。又、鼻血が出て止まらなくて、遅刻したり、授業中に教室を出て保健室へ行く事もあります。そんな時でも、いつでも教室にいる時は、友達が話しかけてくれて、普通に楽しく過ごせます。教室に入るのが気まずいと思ってしまった自分が恥ずかしいと思う事もありますが、楽しく過ごせてる自分がとても嬉しく、友達にありがとう、と感謝の気持ちでいっぱいです。

友達も同じクラスの友達だけでなく、小学校時代の友達が、わざわざ自分のクラスに来てしゃべってくれるのも、とても嬉しいです。勿論、自分だけに会いに来たわけでなく、他の友達ともしゃべってますが、それでもとっても嬉しく、自分は友達に恵まれているなぁと、嬉しい気分です。

身体については、病院で血液検査したり、ＭＲＩを撮ったり、体調不良の原因については色々調べていますが、悪い所がないと言われ、とても、もやもやしますが、友達のおかげでそんな気持ちもなくなります。

いつも助けてくれる先生方、忙しい中、車イスを押してくれ、親にも連絡してくれてありがとうございます。ずっと血が止まるまで待っててくれて、ありがとうございます。

いつも仲良くしてくれて、当番も自分の事をカバーしてくれる友達のみんな、本当にありがとう。

竹原中学校に入って良かったです。先生に恵まれて、友達に恵まれて、自分たちの周りの人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。

いつもは恥ずかしくて言えないけれど、父さん、母さん、いつもいろんなことに手伝ってくれて、ありがとう。

優秀賞

「伝えたい“ありがとう”」

広島県立広島中学校　住廣　釆音

私は後悔している。

母の日毎年あげている手紙とプレゼント。去年はあげなかった。あげることができなかった。なんか、急に恥ずかしくなってしまった。来年あげればいっか、と思っていた。しかし、その「来年」が訪れることはなかった。用意していたプレゼントはいまも自分の部屋におさめられたままである。

私は後悔している。

「もういい」そう言って家を飛び出した、あの日。追いかけてきてくれた母。私が全部悪いのに……正直嬉しかった。帰ってからあやまろうと思ったけれど、なんか、ちょっと気まずくてあやまることができなかった。次からはちゃんとあやまろう。そう思った。しかし、その「次」が訪れることはなかった。

私は後悔している。

洗たく、洗い物、夕飯作り……家事がとても大変だということに最近気づいた。そんなことも気づけないくらいにたくさんのことをこなしていた母。

「夕飯作ってくれてありがとう」「洗たくしてくれてありがとう」

この、家事をしてくれたことに対しての「ありがとう」を私は言ったことがあっただろうか。少なくともきおくにはない。気づいた時には、もう直接伝えることはできなかった。

私は後悔している。

「この学校に行きたい」私の無理なワガママを聞いてくれた。塾に行きたい、という私の思いを聞いてくれた。あやねが、やりたいと思うなら、何でもやってみなよ、と背中を押してくれた。最後の、追い込みは、母がたくさんの協力をしてくれた。

合否発表を一緒に見たときのことは一生忘れない。勝手に涙があふれていた。嬉しくて。これからの未来が輝いていたから。母に感謝を伝えたかった。でも、改めて言うのもなんか恥ずかしくて、言うことはできなかった。

私は後悔している。

「ありがとう」ってちゃんと言っておけばよかった。母の日も、あげたかった。めいわくかけてごめんねってあや

まりたかった。家事、いつもしてくれてありがとう、私も手伝うよって言いたかった……。

私は後悔している。多分、これからもずっと後悔すると思う。

だから、これからは後悔しないように、言いたいときにちゃんと「ありがとう」を伝えたい。

そう思ったとき、私は「母さんありがとう」とつぶやいていた。

目をつぶると、一年前に亡くなった母の笑顔がくっきりと目の奥にうかんだ。

優秀賞

「ごめんなさい」よりも「ありがとう」

広島県立広島中学校　山下　香織

もし、今、あなたが消しゴムを落として、誰かに拾われたら何と返しますか？

多くの人が、「ごめんなさい」か「ありがとう」と返すと思います。

拾ってくれた人によって返し方が変わる人もいると思います。

私は、今年から寮をやめて、家からバスで通学しています。

バスの通学に慣れてきた今年の春、私はバスの中でかばんの中身をぶちまけてしまいました。バスの発車時刻ギリギリにバス停についたこともあり、少しあせっていて、かばんのチャックがあいていたことに気づかず、急いでバスに乗ってしまいました。急いでいたので、バスの少しの段差に気づかず、その段差にひっかかってしまい、バランスをくずしてしまい、かばんの中身をぶちまけてしまいました。

バスが発車時刻に近かったこともあり、バスの中には多くのお客さんがいました。私は、「たくさんの人に迷惑をかけてしまった。早くしないと…」と少しパニックになりながら急いでぶちまけてしまったかばんの中身を拾っていました。しかし、あせっていたので、上手に拾うことができなかった消しごむが、近くにいたおばあさんの方に飛んでいってしまったのです。

おばあさんは、飛んできた消しゴムに気づき、優しく拾って、私にさし出してくれました。

私は、おばあさんに拾わせてしまったことを申しわけなく思い、

「すみません。」

といって、さし出された消しゴムをもらおうとしました。

しかし、おばあさんは

「私が聞きたかったのは、この言葉ではない。」

と言って消しゴムを返してもらえませんでした。

私は、失礼な言葉使いをしていないし、何を言えば良かったのだろうかと疑問に思い、おばあさんに返す言葉が見つからず、だまったままになってしまいました。

すると、おばあさんは、

「これはあなたによろこんでほしくてやったのよ。ごめん

なさい”ではなく“ありがとう”が聞きたい。」
と私に言ってくれました。
私は、発車間近のバスの車内でかばんの中身をぶちまけてしまい、周りの人に迷惑をかけてしまったと申しわけない気持ちになり、早くしないととてもあせっていて、どうしておばあさんが消しゴムを拾ってくれたのかを少しも考えることができませんでした。そして、勝手におばあさんに迷惑をかけてしまったと勝手に決めつけてしまっていました。
あの時、おばあさんは、「良いことをした。少しでも喜んでほしい」と私のことを思って行動してくれたのだと思います。
私も誰かのために行動することがあります。それは、相手に喜んでほしいからです。だから、これからはこう答えるようにしたいです。
“ありがとう”と
そして、気づかせてくれた、おばあさん“ありがとう”。

努力賞

「100歳のひいおばあちゃんへ」

大崎上島町立大崎上島中学校　小林　千笑

和子おばあちゃん、百歳のお誕生日おめでとう。そして、笑顔でケーキを食べてくれてありがとう。

私は、お菓子作りが大好きで、今までたくさんのケーキを作ってきました。和子おばあちゃんの百歳の誕生日ケーキを頼まれたとき、百歳という記念すべき日にケーキを作らせてもらうことに少し戸惑い、自分が作ったケーキでいいのかなと不安にも思いました。反面、とても光栄なことで、いつもより気合が入り、何日も前から、どんなケーキにするかデコレーションのデザインを考えました。

いろんな思いを巡らしながらも、精一杯作ったケーキを、和子おばあちゃんが笑顔で食べてくれたことが本当にうれしく、パティシエになるという自分の進路を後押ししてもらった気分です。

和子おばあちゃん、今まで昔の話をたくさん聞かせてくれましたね。学生の頃は勉強がよくできて優秀だったこと。女手一つで私のおばあちゃんとその兄を育てたこと。幼稚園の園長先生をしていたこと。俳句で詩を作ることが好きで、たくさんの言葉を残してきたこと。和子おばあちゃんのお話からは、温かさや優しさ、そして、力強さが感じられました。

和子おばあちゃんが生まれた百年前はどんな時代だったのだろう？「大正デモクラシー」や「大正ロマン」などの言葉が生まれたり、第一次世界大戦が起き、貿易を積極的にして好景気になったり……。また、第一回目の箱根駅伝が開催されたのも大正時代なんだね。

和子おばあちゃんは、歴史の教科書に載っている時代に生まれ、その後の歴史をずっと生き抜いてきているということになんだか不思議な気持ちになりました。和子おばあちゃんが生まれ、百年という年月もの間生きてきたからこそ、今、私がいて、家族がいて、親戚がいて……その奇跡に感動を覚えるのです。

そして、この令和の時代に私が作ったケーキを一緒に食べて、笑顔で「おいしいね」と言ってくれる和子おばあちゃんに、改めて「おめでとう」と「ありがとう」の言葉を送ります。

自分で歩けて、一人でご飯を食べられることは、なかなかできることではありません。それができている和子おば

あちゃんは、実は最強なんじゃないかな。私は百歳まで、まだ八十五年もあるけれど、和子おばあちゃんのように温かく、そして、力強く生きていきたいです。

これから、私のことも忘れてしまうかもしれないけれど、私は一緒に食べたケーキの味と過ごした時間をずっと忘れないよ。来年も、再来年も、いつかパティシエになったときも、私に和子おばあちゃんの誕生日ケーキを作らせてね。

努力賞

「私を結んでくれたあなたへの想い」

海田町立海田中学校　井田　歩花

中学生になってから出会ったあなたは、私にとってかけがえのない存在です。

初めて会ったときは部活動の体験入部の期間でしたね。人見知りな私にあなたは話しかけてくれました。ものすごく嬉しかったです。なぜなら全く知らなくて違う小学校だった子と初めて友達になれたからです。

たくさんの話をしている内に同じアーティストが好きなことがわかり、隣のクラスだったあなたと休憩時間に語り合う時間が大好きでした。今ではあなたと話すことが、学校に行く理由の一つにもなっています。

同じソフトテニス部に入部した私たちですが、ポジションも練習するコースも一緒でしたね。最初は「よし、頑張ろう。」と思っていましたが、私にはできないプレーができるあなたに段々と尊敬の気持ちと嫉妬心が生まれました。だから私はあなたと乱打をするときも、前衛練習のときも、打ち返しづらいボールを打ったり、落ち込んでしまうような一言を言ってしまったかもしれません。

それでもあなたは毎日笑顔で優しく話をしてくれて、私を大好きと言ってくれて、時に叱ってくれて、こんなことをしている自分がすごく馬鹿馬鹿しく思えました。

それからは、お互いにもっとよくするためにフォームなどを確認し合って、アドバイスをし合えたことで成長し、二人で団体戦のメンバーに選ばれることができましたね。

そして、引退試合の夏季大会で、三位という成績を残すことができて、ものすごく嬉しかったです。あなたが誰よりも味方になって話を聞いてくれたり、抱きしめてくれたから、私は辛いことがあっても乗り越えてこられたと思います。もしあなたが居なかったらなど、考えられないくらい失いたくない存在です。そんなあなたと出会えたことが幸せだなと思います。

自分の素を見せることができ、素直に言い合え、好きなことや考えることも同じ、隣にいてくれて笑ってくれるだけで幸せな気持ちになれる人は、今までもこれからもあなただけだと思います。

普段は変なノリで会話をしたり、あまり感謝の言葉を伝えられていないので、ここで言わせてね。

「いつもありがとう。大好き。」

努力賞

「嫌いな人にでもありがとうを」

熊野町立熊野東中学校　松村　優花

私はよく「ありがとう」という言葉を友達や家族、お世話になった人などに言います。

ですが、私自身が嫌いな人には素直に「ありがとう」と言えないのです。私としても、感謝の気持ちは、好き嫌い関係なく伝えたほうが良いことは分かっているのですが、いざという時に、言えないのです。そして、言葉にして伝えても、感情がこもっていない感じになってしまい、自分でお礼を言えたということに納得がいかないのです。

夏休みの初め、私は嫌いな人とすこしもめ事を起こしてしまい、一時は、私は嫌いな人のことをさけるように行動しました。ですが、人と関わることが嫌いだった私は、クラスメイトに話しかけることも難しく、結局休けい時間も一人で本を読んだりして過ごすことが多くなりました。私がそこで思ったのは、いままでクラスメイトと仲よくできていたのはその嫌いな人のおかげだったということです。おもい返してみればいつも私はその嫌いな人にさそわれて、みんなと話していただけで、話そうとしていたのは嫌いな人だったのです。

私はその事に気づいたにもかかわらず、今だにあやまれずにいるので、自分でもあやまりたくても今更という感情がこみあげてあやまれないのです。

そして、自分の性格を知っていての行動であることもわかり、感謝の気持ちも伝えられていないままなのです。

このように伝えたくても伝えきれない。ということが私はよくあるのです。友達や家族など、親しい仲の人たちには伝えることができても、嫌いな人にだけは伝えることができないのです。

私の「ありがとう」と言えたときは、親しいと感情がこもっており顔にまでででてしまうほどオーバーリアクションになってしまうのですが、嫌いな人相手だと、棒読みな感じで、一切感情のない感じになってしまうので、すごく申し訳ないなぁと思ってしまい、その日はとても気分が浮かなくなってしまうのです。

このように、私自身が嫌いでも、感謝の気持ちは、伝えないと、私自身が申し訳なく感じることが分かりました。そして、その事が分かった数日後から、考えをあらためて、嫌いな人でも感謝の気持ちを伝えることはとても大切なこ

とで、それがきっかけで、できる友達もいるかもしれないと考えるようになりました。

私は今もその気持ちを大事にして、嫌いな人にも、お礼を言うということを大切にしています。もう一度、同じ様なことをおこさないようにするためにも、私は感情を大事にして日々をすごしています。

そして、私はその嫌いな人に感謝して、人の個性を大事に、嫌いな人ともなかよくできるように、伝えられなかった感謝の気持ちを、これ以上増やさないようにしようと思います。

努力賞

「ありがとう、先生」

呉市立音戸中学校　荻　康介

僕は吹奏楽部で、コントラバスとベースを担当しています。元々はアルトサックスを担当していましたが、先輩が引退してからバリトンサックスを担当するようになりました。

体育祭などで、バリントンサックスを演奏するのはとても楽しかったです。これからも文化祭や来年の夏のコンクールに向けてもっともっと頑張ろうと思い、一週間後に控えている演奏会に向けてたくさん練習をしていました。

しかし、本番の一日前、家で息苦しさを感じたため、病院で診察してもらうことになりました。少し不安を感じながらもレントゲンを撮ってもらうと、病院の先生から、

「気胸です。明日の演奏会はもちろんですが、体のためにはこれからもサックスを吹くことは控えておいた方がいいかもしれません。」

と言われました。

気胸とは肺に穴があき、空気が漏れることで肺が膨らまなくなってしまう病気です。とても再発しやすいのが特徴だそうです。

顧問の先生にこのことを伝えると。

「とても残念です。とても頑張っていたのに。」

と言ってくれました。僕も残念で、悔しくて、家に帰って涙が止まりませんでした。

気持ちの整理が付かないまま、肺の状態が落ち着いたので部活に行くと顧問の先生が、

「荻くん、弦楽器をやってみない？」

と言って、長年使われていなかったコントラバスを出して来てくれました。

正直まだまだバリントンサックスに未練があり、弦楽器なんて弾く自信もなかったのですが、吹奏楽部に携わっていたかったので、気持ちを切り替えようと思い、やってみることにしました。

その日から先生はコントラバスの本を貸してくれ、一から丁寧に教えてくれました。慣れない動きに指が痛くなり、うまく出きず落ち込んでいると、

「焦らなくても大丈夫、荻くんは十分戦力になっているよ。」

と言って励ましてくれました。おかげで一ケ月でみんなと同じ練習ができる様になり、諦めかけていたコンクールに

も出ることができました。
初めは後ろ向きだったけど、今ではコントラバスやベースを弾くのがとても楽しいと感じています。まだまだ練習してもっと上達したいです。
あの時、僕にチャンスを与えてくださった先生に、感謝しています。

努力賞

「いつか必ず」

呉市立昭和中学校　河本　凛華

今年の春、新型コロナウイルス感染症の扱いが感染症法の五類になった。それに伴い、私の出場している競泳の大会も、昨年と大きく変わった。例えば、無観客が有観客に、タイム決勝が多かった試合が予決レースにといった点だ。

その中で嬉しかった事は、大会中に表彰式が行なわれる様になった点だ。クラブの先輩が表彰台の上で手を振っている姿が、私の目標だった。それが突然無くなった。が、今年復活。上位になり手を振るんだと、意気込み試合に臨んだ。

最初の大会、一位を目指していたが二位だった。悔しさで表彰台での私に笑顔を作る余裕はない。それに、私は目立つことが得意でなく、初めてのことは苦手だ。緊張もあり、観客席を見ることもできなかった。

その後も表彰台に上がった。今度こそは、笑顔で手を振ろうと思ったが、淡々とメダルを受け取るしかできなかった。

試合前夜、

「明日、メダルもらったら手を振るけんね。」

と母に伝えていてもできなかった。

試合から帰宅すると、

「今日は笑顔を見せてくれる思うたのに、残念じゃった。」

と母に言われた。私は、

「やろうとは思ったんよ。でも恥ずかしかったけんできんかった。」

と言った。

すると母が、

「あんたが頑張れとるのは、あんたの力だけじゃないんよ。多くの人がサポートしてくれとるけんなんよ。」「凛華が表彰台で笑顔を見せることで、サポートしとる側もやって良かったと思えるんよ。そうやって感謝の気持ち伝えたらいいじゃん。」

と言われた。

自分のことしか考えていなかった事を反省した。次こそは表彰台から笑顔で手を振ると心に決めた。

その日は中学校の県大会。一日目は勇気を出すことができなかった。二日目、表彰される事よりその後の事を考えいつも以上に緊張し、初めて足が震えた。賞状をもらい、

観客席を見た。
すると、祖母や母以外にチームメイトのお母さん達も手を振ってくれていた。緊張が一瞬でとれた。自然に笑顔になり手を振った。気持ち良かった。
母に、何でこんな事にこだわるのか反抗していたが、私に伝えたかったことが実感できた。感謝の気持ちを伝えることがこんなに気持ちいいんだと思えた。
母が撮ってくれていた動画は、撮影しながら手を振っていたことがわかるブレブレ動画だった。
練習の送迎をしてくれる祖父母には、試合後に結果と感謝の気持ちを直接伝える様に言われ、実行している。
実は、今まで父や母に直接伝えたことがない。一番伝えたい相手だが、タイミングや言葉がわからない。
今回の事で、色々な伝え方や、その後お互いがどんな気持ちになるかが分かった。
いつか必ず、私と父や母が満足いく方法で、感謝の気持ちと
「ありがとう。」
の言葉を伝えたい。

努力賞

「先生へ」

呉市立昭和中学校　三輪　明由未

私が低学年のとき、ある一人の教育実習生が自分のクラスにやってきました。みんなが先生の周りに集まり、私は先生のそばにいるだけでとても楽しかったです。今思えば、私はずっと、先生につきっきりだったかもしれません。

私が小学生のとき、いろいろな先生との思い出はいくつもありますが、私はこの先生との一つの思い出がどうしても忘れられません。

それは先生のお別れ会のときのことです。お別れ会のときにクラスから数名、先生への感謝の作文を言うことに決まりました。そのとき私はやってみたいと思い立候補してみました。しかし、私は作文など文章を書くことがとても苦手でした。何度も母や父、担任の先生におかしなところはないか聞きに行っていたことを覚えています。

そして、いざ先生への作文を発表するとき、私以外の人はとてもうまく先生への感謝の気持ちを伝えていましたが、私だけは読んでいておかしいなと思うところがいくつかあり、読んでいて恥ずかしくなり、読みおわった後、少し立候補したことに後悔していました。

しかし、お別れ会が終わったあと先生に「上手に書けていたね。ありがとう。」など、うれしい言葉を言ってくださり、私は先程まであった後悔はどこかに飛んでいってしまいました。

あのとき、私が本当に苦手なことについてほめられたことが、私の中でずっと残っています。

そこから私も、こんな大人になりたいと思うようになりました。そして今、私は先生のように教師を目指しています。

あれから数年。私は中学生になりました。今、先生が教師になっているのか、私のことを覚えているのかわかりません。でも、これからも教師になれるようにがんばりたいと思います。

あのとき、私の苦手なことをほめてくださり、ありがとうございました。

もしかしたら、一緒に働ける日が来るかもしれません。そのときが来ることを楽しみにしています。

努力賞

「今、伝えたい「ありがとう」」

呉市立昭和北中学校　野口　琶月

私には、九十歳を超えた曽祖母が居ます。

曾祖母は今、病院に入院中でお見舞いに行くにも人数制限があったため、私は曾祖母が入院してからまだ一度も会っていません。

曾祖母は優しい人で、小さなころから私や私の家族は曾祖母のことを「ばあこ」と呼んでいました。

曾祖母、ばあこは五、六歳くらいの私たち姉妹や仲の良いいとこに、よくあめやおかしをくれました。ばあこからもらうあめが大好きで、一日で十個くらい食べていた時は、母親やいとこのママから「一日三個まで、じゃないと糖尿病になっちゃう」と言われるほどでした。それでも私といとこで、ひそかに盗み食いをしていたのは一生の秘密です。

今は、曾祖母の部屋を覗いてもあめが入っていたプーさんのビンがないのは、なんだかさびしいです。

曾祖母はよく縁側でお茶をしようと言ってくれました。お茶といってもそこですこしおかしを食べるだけでしたが、その時、気になったことはなんでも人に聞く当時の五才児は、父に聞いてもわからないことがあると、次は曾祖母に聞いてみようと、お茶の時間によく話をしました。戦争のことから花言葉まで、私がきいた質問に曾祖母はかならず答をくれました。

今は、父や母にわからないことがあるなら、ケイタイで調べなさいとしかいわず、なんだか私の話をきいていないようでさびしいです。

また、曾祖母の知恵や豆知識を聞きたいし、学校でのこともたくさん話したいです。

曾祖母ばあこ、いつも私達のことを大切にしてくれてありがとう。まだまだ、たくさん話したいことがあるし、学校での楽しかったこともたくさん言いたい。

だから、早く元気になって私の話をたくさん聞いてください。

ばあこ、いつもありがとう。

努力賞

「大好きな友達へ」

呉市立昭和北中学校　藤吉　陽香

いつもありがとう。私達が初めて会った日は、中学二年生の四月だったね。私は中学一年生のとき、不登校でした。教室に入るのがこわくてずっと行けないでいました。

でも、二年生から勇気をふりしぼって教室に入りました。けど、最初はずっと一人で、十分の休憩時間が一時間ぐらいに感じてた。ペアを組むときも、私は一人でした。

そんなある日、いつも通り席にすわっていたら「ここ」が声をかけてくれたよね。あのとき本当にうれしかった。ありがとう。

ここは、

「よかったら友達にならない。」

と言ってくれた。

すると、ここの友達が来て

「よろしくね。」

って元気に言ったよね。

そこから「ここ」と「なつきちゃん」と友達になったんだよ。こことなつきちゃんとは同じクラスで、たくさん話すようになったね。

教室に入ったら「おはよう」って言われたとき、本当にうれしかった。

移動教室のとき、一人で行こうとしたら

「一人で行かんで、三人で行こ。」

って二人から言われてから、移動のときは、三人で行くのがあたり前になってホッとしたよ。

私が一日学校を休んだとき、なつきちゃんはメールで

「大丈夫。今日休んでたよね。」

って心配してくれて、学校に行くと、ここが

「昨日、大丈夫だった。もう大丈夫。」

って朝声をかけてくれて本当にうれしかった。

二人のおかげで、クラスメイトとも仲良くなれたんだよ。ありがとう。

いつも、たくさん手紙くれたよね。ずっと大切に持ってるよ。私があげた手紙も大切に持ってるといいな。いつも手紙で「ありがとう」を伝えてるけど、またあらためて伝えるね。

本当に二人ともありがとう。同じクラスになって出会えてよかった。これからもずっと大好きだよ。ありがとう。

努力賞

「見守り隊」

呉市立天応学園(中学校)　河部　心優

私は地域の見守り隊の方々にありがとうを伝えたいです。見守り隊の方は、踏切の前で沢山の人に挨拶をしています。朝見守り隊の方のおかげで、私達は安心して学校へ行けていて、いつも感謝しています。

私は地域に同級生が居なくて、低学年の頃は一人で下校するのが不安でした。ですが見守り隊の方が一緒に家まで帰ってくれたり、楽しい話をしてくれて安心して帰ることが出来ました。

それに私は見守り隊の方々の挨拶にも助けられています。いつも笑顔であいさつをされ、私は元気をもらっています。

私が一年生の時、学校に行くのが不安で泣いていた時、家族や見守り隊の方々に、

「おはよう、今日も学校がんばってね。」

と言われいつも学校へ行くことが出来ました。

私はいつも地域の方に支えられて学校へ行っているんだなと思いました。

学校へ行く時、踏切へ引っかかった時も学校の話やおもしろい話しをしてくれて、笑顔で学校に行けています。

そして、六年の時、家庭科の授業で、地域の方へ手作りコースターを作りました。私は、いつも家まで帰ってくれた方と、いつも話かけてくれた方へプレゼントをしました。

いつもの感謝の気持ちを手紙に書いて、コースターも沢山使ってくれるかなと思いながら作ることができました。

地域の方にプレゼントをしたとき、とても喜んでくれてとてもうれしかったです。がんばって作ってよかったなと思いました。

私は見守り隊の方々に、いろんなことを支えてもらっているんだなと思いました。

これからも、朝は見守り隊の方に大きな声で挨拶をしていきたいです。

そして見守り隊の方々、地域の方々や家族のおかげで私は毎日安心して学校へ行けていることを、これからもずっと、感謝していきたいと思います。

また直接会ってありがとうという気持ちを伝えたいです。

努力賞

「明日があるありがたさ」

呉市立天応学園(中学校)　田尻　希心

私は、最近おばあちゃんを亡くしました。前まで、「きこちゃん」「きこちゃん」と呼んでくれていたのに、その声は一瞬で聞こえなくなりました。何ヶ月か前までは呼んでくれていたのに、明日が過ぎていくうちにその声は消えていくのです。

私たちは、普段から「明日、明日」と使っていますが、いつ明日が来なくなるかはわかりません。人はいつ亡くなるかはわからない、私が明日、事故に遭うかもしれません。だから私は、「明日があるありがたさ」と思うことが大切だと思いました。

私は、おばあちゃんが亡くなった後も、たまにおばあちゃんのことを思い出して、「こうしてあげればよかった」と後悔してしまうときがあります。それは、おばあちゃんが亡くなる一週間前、私はおばあちゃんの介護をしていました。その時、私は帰るとき、おばあちゃんに、

「またね。」

と言って帰ったのに、亡くなる日まで私は介護に行けませんでした。そして、おばあちゃんが亡くなる日、私がベッドの上でごろごろしているとお母さんから、

「ばあば死にそうよ。」

と泣きながら聞かされました。

そのことを聞いた私は、まだおばあちゃんを見ていないのに、涙が溢れ出してきて、急いでおばあちゃんの家に行きました、

そこには、今にも亡くなりそうなおばあちゃんがいました。私はずっと涙が止まらなくて、「またねって言ったのに。」と思っていました。そのことを思っているうちに、おばあちゃんは私の目の前で息を引き取りました。

私は、おばあちゃんにたくさんの思い出をもらいました。おばあちゃんには八人の孫がいて、私がその中で一番下です。いとこの中でおばあちゃんとの思い出は少ないですが、おばあちゃんは亡くなる日まで、私たちにたくさんの思い出を残してくれました。おばあちゃんといた、何気ない一日一日が、私たちにとって最高の宝物です。

今はもうおばあちゃんはいない、明日もおばあちゃんはいません。でも、私には明日が来るかもしれない、だから一日一日を大切に生きて、一日一日悔いのない人生にして

いきたいと思いました。
　このことを思わせてくれたおばあちゃんは、私たちいとこにとって、自慢のおばあちゃんです。
「ばあばありがとう。」

努力賞

「トラウマを乗り越えて」

呉市立天応学園(中学校)　本保　侑弥

僕がありがとうを伝えたい相手は「音楽」です。

これは僕が小学生のときの話です。

僕に変化が表れ始めました。声変わり、そう…声が低くなったのです。

僕は初めてのことに不安でいっぱいになりました。周りからの目線が気になって、声を出すのが恥ずかしかったのを覚えています。しかし、生活してると声を出す場面に出くわします。僕は少しでも慣れるよう、何をしたらいいのかを考えました。思いついたのが、自分が好きなことと組み合わせて慣れることです。

僕は当時、音楽が好きで毎日歌を聴いていました。だから、家で歌を歌いました。初めは、声を出すのが難しくガラガラした声やかすれた声しか出ませんでした。それでも、毎日諦めず練習し続けると、恥ずかしさも気にならなくなりました。

でもある日直の日、自分にとってのトラウマが起きました。静かな教室、自分の号令が響く中で何人かの笑い声が耳に入りました。一瞬何で笑っているのかわかりませんでしたが、自分の声を笑ってるとわかった途端怖くなりました。また笑われるんじゃないのか、心の中で笑っているのではないかと思ってしまい、声が喉に引っかかり上手に出ませんでした。

その日以来、声を出す場面を避けるようにしました。

自分の声は変なんだろうか、自分はみんなと違っておかしいと悩んでいると、ある曲と出会いました。歌詞の内容が自分を肯定してくれたと感じ、自信を貰い、練習を再開しました。

九年生になった今、あの時の条件、状況になったとき不安や怖い気持ちがあるけど、他のも時間を掛けていきたいです。自分は「他の人がどうこうと思ったり、言おうとも、自分は自分だから、無理に変える必要はないし、変わる必要もない」と思います。

あの時、あの曲に出会えてなかったら、今より声を出すことを避けていたと思います。

自分はこれからも傷ついたとき、悲しいときに音楽から元気を貰っていきます。

「今まで出会えた音楽に、ありがとう。これから出会う音

楽は、よろしくお願いします。」

努力賞

「私の尊敬できる友達へ。」

呉市立仁方中学校　池田　真菜美

私には、とても素敵な友達がいます。そんな素敵な友達にまず、一番に『ありがとう』を伝えたいです。

私は丁度四カ月前くらい前まで不登校気味でした。学校も勉強も部活も全てが嫌になり、誰にも相談できませんでした。

でも、そんな私にも愛想を尽かさず、学校に行けば友達は笑顔で話しかけてくれました。

一緒に帰った日は、私が相談しようとすれば黙って最後まで話を聞いてくれました。私の気持ちを否定せず、納得がいくまでアドバイスをしてくれました。

他にも、私が悩んだり落ち込んだりしていると、心配してくれたり、笑わせてくれたりします。

数学や社会で分からなかった所がたくさんあって

「教えて。」

と、言うとイヤな顔を全くせず、分かりやすく丁寧に教えてくれます。

でも、私はそんな優しい友達とたまに喧嘩します。自分が思っているような事とは逆に、傷付けてしまうような事を言ってしまいます。

悪いと分かっているのに、素直になれず『ごめんね』の一言が言えません。

なのに、私が気まずそうに話しかけるといつものように話してくれます。

でも、そんな友達の優しさにいつまでも甘えていたら、もしかすると、修復ができないくらい傷付けてしまうかもしれません。大切な友達を失いたくないし、これからはもっと大切にしたいので、これからは、その優しさに甘えず、まずは『ごめんね』を言うようにしようと思います。そして、もし言いそうになったら、言った相手はどのような気持ちになるかをしっかり考え、もしかするとすごく傷付いてしまうということをしっかり思い出したいです。

他にも、素敵な友達がいます。その子にも、大好きでとても尊敬のできる点がたくさんあります。

それは、誰とでも仲良くできるところです。

誰かが一人でいたり寂しそうにしていると自然に話を振ってあげたり、話しかけたりしていました。

私も気にかけてもらい、すごく心が救われました。

私がやってもらって嬉しかったので、私も少しでもあこがれに近付けるように真似したいです。
私は、そんな素敵な友達がたくさんいるのに、まだ何も返せていません。
なので、卒業するまでに、感謝の気持ちを伝えたいです。

努力賞

「私の弟」

呉市立仁方中学校　平本　ほのか

私には弟がいます。現在八才の弟は、昔から体が弱く、今でも体調を崩してよく熱が出てしまいます。

そんな弟は五才の頃に、川崎病になりました。

川崎病とは、高熱、両側の眼球結膜の充血、真っ赤な唇と苺のようにブツブツの舌、体の発赤疹、手足の腫れ、首のリンパ節の腫れなどの症状がある病気のことを言います。弟はすべての症状が当てはまっていました。

私はこの時、弟の大切さ、ありがたさがわかりました。よくけんかする弟が「うっとうしい」と思うこともありましたが、弟が川崎病になり、弟の存在の大切さが強く心に打ちつけられました。

川崎病になった弟は、いつもとは真逆で、ぐったりしており、首のリンパ節がパンパンに腫れていました。その日の夜、弟は食べたものをすべて吐いてしまいました。母は吐いてしまったことで、「普通の風邪ではない。」と異変に気付き、私は祖父と祖母が住んでいる近くの家に預けられ、弟と母はタクシーに乗って病院にかけつけました。

次の日の朝、弟が入院することが決まったことが電話で伝えられました。その電話で「川崎病」になったことがわかり、私は頭の中が真っ白になりました。それは川崎病になると亡くなってしまう可能性があることを知っていたからです。

弟の入院生活が始まると、私は母に会えなかったりして、弟の少しずつ元気がなくなる姿を見ると、ものすごく不安で押しつぶされそうになりました。私は毎晩、弟が居ない生活を考え、今までの楽しい生活を取り戻せないということを考え、私にできることは何かと考えました。

私にできることは、弟に感謝の気持ちを手紙で伝えるということでした。私は週に一回手紙を送ることにしました。

その感謝が伝わったのか、入院して数か月後、弟は少し顔や体に発赤疹が残っていましたが、退院できることが決まり、私は安心して、心がジワーッと温まった気がしたのを覚えています。

退院当日、私は弟に会えるということで、ソワソワしていました。弟に会えたとき、私はふと、

「元気に帰ってきてくれてありがとう。」

と言葉がでました。

私はこの出来事が起きてから、身近な人の大切さ、ありがたさを実感しました。

だから、常日頃から、感謝の気持ちを伝えようと思っています。

努力賞

「私の最強のライバル」

呉市立仁方中学校　宮原　虹歩

字もきれいで、足も速い、面白くてとても優しい、私の親友。

私の人生を百八十度変えてくれた自慢の親友へ「ありがとう」を伝えたい。

私が小学三年生のとき、友達だった子に紹介されて出会った。始めは（気まずい。）（何を話せばいいんだ。）と困惑し、その友達としか話せていなかったのを覚えている。彼女のことは小学一年生の時から知っていて、入学式が終わった後、先輩たちが、

「かわいい。こっち向いて。」

と言っていて、（話しかけてみたいけど、近寄りづらいな。）と思い少し遠ざけていた。しかし、何度も遊ぶにつれ仲良くなり、友達だった子より遊ぶようになった。高学年になった頃には周りから、

「姉妹みたい。」

と言われるほど一緒にいた。

そんな彼女は始めに書いたとおり、字がきれいで書道コンクールでは毎回金賞、学年で二位ぐらい足も速かった。（私もそんなふうになりたい。）と思い、六年生の時、持久走へ向けてたくさん教えてもらった。その結果、リレー選手に選ばれたり、持久走では学年四位を取ることができた。

中学生の頃、私たちの友達の間で、かわいいと流行していた小さな字が身に付いていた私には、（きれいな字なんて書けない。）と思っていたけど、彼女の字を見てたくさん練習して、今は家族や友達に、

「虹歩ちゃん最近字きれいだね。」

と言われるようになれた。書道コンクールにも選ばれた。

私の行った中学校は近場で、ほとんどの人が小学校からその中学校へ行くため、メンバーも変わらなかった。

中学一年生になると、私はタブレット式の塾に入った。小学校のときは意識していなかったテストの点数が、こんなに重要になるとは思っていなかったから、テスト期間もダラダラ過ごしていた。するとどんどん成績は下がっていき、二年生になった。

友達は、そのとき隣町の塾まで通っていて成績もよかった。

私は塾に対して知らない人がたくさんいる怖い所とい

うイメージがあって避けていたけれど、入塾することにした。

この友達とならできると、班長や室長、修学旅行実行委員など、お互い苦手だった人前に出ることもできるようになった。

そして、いつしか点数を競ったりする「ライバル」となった。

今私は、友達と一緒でなくても、自信をもって積極的に発表などができている。友達との出会いは、お互いを高め合える関係になれる。

私はこれからも色々な人と出会って「最強のライバル」を見つけていきたい。

私に出会いを与えてくれた友達も、友達になってくれた友達も、本当にありがとう。

努力賞

「私を変えてくれた人」

呉市立広中央中学校　高山　心緒

私が今一番感謝しているのは、小学二年生からずっと一緒にいる親友だ。そう思ったのにはとある出来事があったからだ。

その出来事とは、私が小学二年生の時にさかのぼる。

当時の私はとても人見知りで、友達を作るのがあまり得意ではなかった。そんな中、兄が所属していた野球チームに私もついて行くことになり、とても不安を覚えた。

「ちゃんと話せるかな。」

そんなことを考えてるうちに練習場所に到着してしまった。

私は緊張して誰にも話しかけることが出来なかった。奥で遊んでいる子たちがいるけど、

「無視されたらどうしよう。」

と不安になり話しかけず椅子に座っていた。そんな時間が約三十分経過した後、遊んでいた子たちが戻ってきた。

私は、

「話しかけるなら今だ！」

と思い椅子から立ち上がった。

しかし、なかなかタイミングが掴めずまた椅子に座った。すると、私の行動を察してか、ある一人の女の子が話しかけてくれた。

「ねえねえ、あっちで一緒に遊ばない？」

その言葉に、私はうれしくなりすぐに

「うん！」

と答えた。

鬼ごっこやかくれんぼ、ゲームなど、いろんなことをして遊んだ。私と話しかけてくれた女の子が飲み物を取りに戻り、二人とも自分の水筒を手にとった。その時、私も彼女も思わず目を丸くした。二人同時に、

「あ！水筒同じだ！」

と言い笑っていた。それがきっかけとなり、私と彼女はどんどん仲良くなっていった。そしてその頃から私はいろんな人に話しかけるようになり、友達もたくさん増えた。そして彼女とは中学三年生になった今でもずっと仲良くしている。

今思えば、あの場面で彼女が私に話しかけてくれなかったら、今私は自分から話しかけに行くことなんてなかったかもしれない。だから、そんな私を変えてくれた親友に、

一番感謝している。

努力賞

「大好きな祖父にありがとう」

呉市立広中央中学校　堂原　美羽

私は、二年前に亡くなった大好きな祖父に「ありがとう」の気持ちを届けようと思います。

祖父が亡くなる前はとても元気で大変な仕事を、私達のために働いてくれていました。祖父はすばらしい料理人でした。ホテルに泊まりに来られたお客さんが祖父の料理を食べて、

「とても美味しい。」

「また食べたい。」

と言ってくれて、私もうれしかったです。家でも美味しい料理をつくってくれて、何回食べても飽きない私の一番の大好物でした。

その他でも海へ一緒に行って釣りをしたり、川で遊んだり、みかんを取りに行ったり、沢山楽しいことをしてくれました。

しかし、祖父はうつ病になってしまい、体は段々と弱ってきていました。病院に行って祖父が入院することを聞いて、もう美味しい手料理は食べれなくなるのかな、もう家には帰ってこないのかなと、私はとてもショックを受けました。この時期はコロナの影響で病室には入れず、祖父に会いたくて仕方ありませんでした。

数日後、祖父が退院して来ました。祖父の顔が見れてとてもうれしかったです。ずっと祖父の側にいて沢山お話をしました。でも、祖父はいつもの祖父ではないなと思い、よほど辛いことが分かりました。しんどいのに私の顔を見ながら笑顔で話してくれました。

また、祖父が入院することが決まり、病院へ行きました。段々と祖父の体はさらに弱っていき、呼吸困難になってしまい、人工呼吸器を着用することになってしまいました。

祖父は声を出せなくなり、もう声が聞けなくなることがとても寂しかったです。でも祖父は集中治療室のベッドで私の手を強く握り、色んな思いや言葉を体で教えてくれました。

私達の目を見て起き上がろうとする姿は、私達のためにまだいろんな事をしてあげたいと、最後まで諦めていませんでした。手術をしてもお腹の中は段々と腐っていきました。

そして、七月十三日、午前十一時頃、祖父は帰らぬ人に

なってしまいました。とても悲しくて、祖父のベッドの横でしゃがみ込んで、私は涙が止まりませんでした。

今まで元気だった祖父が死んでしまったとは、今でも信じられません。

祖父の姿が目に見えなくても祖父と私はずっと一緒です。

「じいじありがとう。」

私を見守っててね。

努力賞

「本当は伝えたい『ありがとう』」

呉市立宮原中学校　白石　莉愛

私には感謝をしたい人がたくさんいます。その中でも一番感謝の気持ちを伝えたいのは、私が中学二年生のときの部活の顧問の先生です。

私はそのころ、友達との関係や男子との人間関係に悩んでいました。そして毎日学校に行きたくないという気持ちが強くありました。

部活が終わって帰ろうとしていた私に、

「明日も来るんよ。」

と、先生が声をかけてくださいました。その一言で、学校に行きたくないという気持ちから、先生が居るから学校に行ってみようという気持ちに少し変わっていました。

私が泣きながら先生に辛かったことを話したら、先生も昔辛かったことを話してくれました。辛いことを思い出すのは辛いのに話してくれました。

私は、辛いときに支えてくださった先生がいて、前向きに頑張ることができました。そして、先生への感謝の気持ちと同時に、先生のようになりたいという憧れの気持ちが強くなりました。先生の字がきれいだったり、傷ついている人がいれば助けたりと、人として憧れるところもあります。そんな先生のようになれたらいいなと思っています。

もし私の友達が誰かを、傷つけていたら、自分から注意できるくらい人を大切にする心を学び、それを身につけていくことが大切だということも分かりました。

こうやって出会った人に教わったこと、感謝したいことを考えていると「ありがとう」を伝えなければならない人がすぐ近くにいると思えてきました。

毎日「ありがとう」を伝えられるのであればそうしたいですが、今では恥ずかしいという気持ちがふくらみ、こういった作文を書く機会でしか、感謝の気持ちを伝えられなくなってきました。だからこそ、今この作文の中で「ありがとう」というこの気持ちを伝えたいです。

いつかは恥ずかしさを乗り越え、私を支え続けてくださった先生に必ず、

「ありがとうございました。」

と言える自分になりたいと思います。

そして、私もいつも誰かに「ありがとう」そう言ってもらえる人になりたいと強く思います。

努力賞

「私の両親　感謝でいっぱい」

呉市立横路中学校　稲葉　弥桜

「今まで育ててくれて、勉強を教えてくれてありがとう、これからも迷惑かけると思うけどよろしくね。」

私はこの言葉を両親に伝えたいです。日頃、感謝の気持ちは照れくさくてなかなか伝えられません。でも、振り返ってみると両親には感謝することがたくさんあります。

まずは母に対してです。ここまで、大切に育ててくれた母には感謝することがたくさんあります。

一つ目は、「家事をしてくれること」についてです。

母は仕事をしていて、帰ってくる頃には疲れて大変なはずなのに、何も言わず家のことをしてくれます。私は双子なので、小さい頃は二人の面倒を見ながら家事をしていたので、今よりもっと大変だったと思います。私は、毎日家事をやっている母のことをとても尊敬します。母のおかげで、昔も今も、何不自由なく生活を送れています。楽しく生活を送れていることに感謝し、時間がある時は家事を手伝ったりして、少しでも母の負担を減らせていけたら良いなと思います。

二つ目は、「勉強を教えてくれること」についてです。

私は小さい頃から勉強があまり得意ではありませんでした。それでも母は、私が理解できるまで、何度でも教えてくれました。叱られることもあったけど、母が教えてくれたおかげで今は、だいぶ基礎が定着したと感じています。

この二つのことをまとめて、私は母に「家事をすることで家を支えてくれてありがとう」「分かりやすく勉強を教えてくれてありがとう」とこの二つの感謝の気持ちを伝えたいです。

次は、父に対してです。父に感謝することは、「家計を支えてくれること」についてです。

私の父は自衛隊で働いています。当直や出港で、家を空けることが多いです。休日、私が家で遊んでいる時も、父はずっと仕事をしています。

父と会えない日があるのは寂しいけど、家族のために週末関係なく働いている父を尊敬します。父が働いて得た給料は生活のために使い、母が働いて得た給料は、将来のために貯めているそうです。だから、今生活できているのは父が働いてくれているおかげです。

このようなことから私は、父に「家族のために働いてく

れてありがとう」と感謝の気持ちを伝えたいです。

努力賞

「エール」

呉市立和庄中学校　齋藤　奏愛

小学生のころの運動会、私は、とてもうれしいことが二つあった。

うれしかったことの一つ目は、お弁当だ。毎日私たちのお世話でいそがしい中、お母さんは、夜おそくまで、お弁当の仕込みをしていた。朝早く起きて、とても大きいお弁当箱いっぱいに、詰め込んでくれていた。

運動会の、午前の部が終わってごはんを食べる時間があった。お弁当箱を開けると、私が大好きな赤飯や、ミートボール、エビフライなど、たくさんのおいしそうな料理があった。

「いただきます。」

と言って、ご飯を食べると、つかれが吹っ飛んだ。とておいしくてほっぺたが落っこちそうになった。

お母さんが作ってくれたお弁当のおかげで、とても、がんばることが出来た。

うれしかったことの二つ目は、お母さんの応援だ。かけっこやリレーの時、毎回お母さんが、

「かなたー、かなたー、がんばれー。」

と言って、応援してくれた。みんなの前で、大声で応援されるのは、とても恥ずかしかった。けれどもその応援のおかげで、とてもがんばれた。運動会が終わって友達が、

「かなたちゃんのお母さん、すごい大きい声で応援してたね。」

と言われた。私は、

「そうだよね、めっちゃイヤだった。」

と言った。本当は、とてもうれしかったのに、友達の前でうれしかったことを言えなかった。

家に帰って、私がお母さんに、

「もう大声で応援しないでよ、めちゃくちゃ恥ずかしいんだから。」

と言った。お母さんにも、うれしかったことや、応援してくれてありがとうという気持ちが言えなかった。私は、言えない自分にモヤモヤしていた。

私は、運動会、お母さんのおかげでがんばることができた。それ以外の、参観日やロードレース大会という地域の大会でもがんばることができた。

ふだんお母さんに、気持ちが正直に伝えられないけど、

これからは正直に伝えようと思いました。
いつも見守ってくれてありがとう。
これからもよろしく。

努力賞

「言えなかったありがとう」

呉市立和庄中学校　下花　奏太

六月十九日に病院へ行って、

「治療をするために入院しましょう。」

と、先生に言われてから、ぼくの入院生活を全力で支えてくれたお母さんありがとう。

体重を増やすための治療で、鼻から管を通して流動食を摂ることになって、摂取カロリーを増やすために、食べる量を増やしたり、治療を始めるまでは、ぼくは全然余裕だと思っていました。

でも、いざ始めると、鼻に管を通すとき何回も、

「オエッ。」

ってなって、通し終わった後、今度は、のどのいわ感がすごくて、その日はずっと苦しくて辛かったです。でもその時お母さんがずっと病室で見守ってくれて、ぼくは、(辛くてもがんばろう。)

そう思いました。だから、のどのいわ感があった数日間は、無事に乗り越えることができました。

流動食が始まって二週間ぐらいの時、胃の大きさをＵＰするために、流動食の量を増やしました。すると、最初の二日間は、昼の流動食が終わってから、夜中ぐらいまでずっと胃が痛くて、寝込んでいました。そんな時、お母さんが、ぼくの寝ているベッドのそばで、

「大丈夫。きっと良くなるから。」

と、付きそって、はげましてくれました。苦しい時にはげましてくれて、ぼくは本当にうれしかったです。

入院して約一ケ月が経とうとするころ、ぼくは流動食があっても少しずつ食べ物が食べれるようになってきました。お母さんは、ぼくが食べれる物を持ってきてくれたりしました。

そして、治療方法のことなど話し合ったりする時に、いつも一緒に話し合いに参加してくれて、いろいろな方法を試させてくれました。ぼくがいろいろなことで、なやみ事をしている時や考え事をしている時、聞いてほしい事がある時、いつも相談に乗ってくれました。本当にありがとう。

今、ぼくはまだ治療に専念しています。まだまだ苦しいかべが、どんどんぼくのもとにせまってくるだろうけど、退院するためにがんばります。

そして、今まで入院中なかなか言えなかった『ありがと

う』がたくさんあるので、この『ありがとうの手紙』を機に言わせてください。

「いつも、ありがとう。」

努力賞

「はじめの一歩」

呉市立和庄中学校　高橋　のな

中学生になり、学校生活で一番不安だったこと。それは「友達」である。

私は初めて会う人に声をかけることが恥ずかしく、ちがう小学校だった人と仲良くなれないのではないかと、頭の中でモンモンと考えていた。

入学式は終わり、その日は先生の紹介で解散した。あたり前だけど同じ小学校の人がいてよかった。優しそうな先生でよかったと安心しながら帰っていると、これから一年間一緒に過ごす仲間とちゃんとやっていけるのか、またまた不安になった。

私は物事をすぐネガティブに考えるくせを直すため、不安になったら明るい言葉を口に出そうと決めていた。

「毎日あいさつをしよう。できたら、何げない会話もしてみよう。」

その日から、全員友達作戦は決行したのである。

次の日からあいさつと一緒に、名前を聞いてみた。すると全員が笑顔で名前を言ってくれて、私の名前を聞いてくれ、名前で呼び合えるようになった。

「よろしく。」

と言ってくれた。ただそれだけだったけど、ガチガチに緊張していた私にとっては、みんなのことまだくわしく知らないけど、大丈夫だなと思えた。

勉強も部活も始まり、中学生らしくなってくると慣れない生活に疲れてくるときがあった。そんなとき、一番近くで支えてくれているのは友達だった。

勉強で分からないところを優しく教えてくれる人も、吹奏楽部で一緒にやろう言ってくれる人もいる。みんなが私にとっての宝物だと思った。

忘れ物など悪い部分が目立つ人でも、人を笑わせられるムードメーカーだったり、人をまとめ、引っぱっていけるリーダー的存在だったり、いい所もたくさんあると気づいた。

それから少し苦手な人がいたとしても、苦手と決めつけずに、さりげなくあんな行動ができるなんてかっこいい、見習いたいと、いい所を探すようになった。

友達の力は、ときに大きな安心となり、ときに燃える競争心となる。大きな一歩をふみ出すとき背中をおしてくれ

る支えにも。いつもいつも助けてもらってばっかりだけど、いつか私にも頼ってもらえるように、遠慮せずに自分たちの意見もぶつけ合って、お互いを認め合って笑えるようになりたい。

まだ一年生の夏、これからも宝物が増えていくんだと思うとものすごく楽しみだ。

今、友達という大きな柱がなくなってしまったら、私はくずれてしまうだろう。

だから今伝えたい。出会ってくれてありがとう。みんなのおかげで毎日が楽しいです。

これからもずっとよろしく。

努力賞

「大切なお父さんへ」

呉市立和庄中学校　谷田　まどか

いつも私を支えてくれてありがとう。

小さい頃の思い出が、今も私の心にはっきりと残っています。手を繋いで買い物に行った時、

「いつまでこうやって手を繋いでくれるんかねぇ。」

と、寂しそうに笑う顔を思い出すと、今でも心が熱くなります。今ではかわいくなくなって、反抗的になっちゃったけど、お父さんが大好きなことは変わりません。

自転車の練習を一緒にしてくれたこと、そして乗れるようになったときの感動を忘れません。そのおかげで、今でも自由に移動することができます。本当にありがとう。

私が悩んでいる時に、ずっと話を聞いてくれて、解決策を一緒に考えてくれたり、一緒に悩んでくれてありがとう。お父さんが、

「まどかは頑張っとるよ。」

と言ってくれたおかげで、私も前向きにがんばろうと思えました。お父さんのあたたかい言葉はいつでも私に力をくれます。本当にありがとう。

わがままな私を笑って受け入れてくれてありがとう。でも、いらないものを買うくせはお父さんの遺伝だと思ってるよ。お父さんもいらないものを買うくせを治してね。

私が怪我をした時、いつも心配してくれて、注意してくれて、本当にありがとう。これからは、

「まどかなら心配いらないな。」

って言ってもらえるぐらい、成長していきたいです。

塾への送り迎え、いつも助かってます。疲れているだろうに、本当にありがとう。

ダメなことはちゃんと怒ってくれて、分からないことは教えてくれて、挑戦するのを見守ってくれて、ありがとう。お父さんのサポートがあるからこそ、私は成長できるんだなと思います。

挑戦することを恐れている私を、いつも最後に背中を押してくれるのはお父さんです。一生懸命応援してくれて、成功したときには褒めてくれて、本当に感謝しています。

振り返ってみると、「ありがとう」と「ごめんね」をもっと伝えるべきだなと反省しました。でも、これからはその言葉を大切にして、感謝の気持ちをちゃんと伝えていくね。

ずっと寄り添ってくれて、厳しいけど優しくて、お茶目で可愛いところもあるお父さんが大好きです。

これからも、いっぱい迷惑かけちゃうし、心配かけちゃうと思うけど、少しでも成長する私を見守っててね。

ここまで私を育ててくれてありがとう。

まどかより

努力賞

「平和のバトン」

呉市立和庄中学校　原本　昇之介

「安らかに眠って下さい　過ちは繰返しませぬから」

終戦から七十八年を迎える八月六日の今日、今年も家族みんなで黙祷を捧げました。

ぼくのひいおじいさんは、七十八年前の八月二日に徴兵され、呉から広島に行き、その四日後の六日に原爆投下により行方不明となりました。

ひいおばあちゃんが調べたところ、八月六日八時十五分ころ、今の広島そごうのあたりにあった練兵場で、上半身裸になり、朝の体操をしていたそうです。原爆で焼けただれた兵隊さん達は、もがき苦しみながら川へと飛び込み、人と人が絡み合い、いかだのように連なり流れていったという情報を手に入れただけで、遺骨もなく二十八歳という若さでこの世を去りました。

ひいおじいさんとの思い出は、おじいちゃんも当時二歳だったので記憶にもないそうです。でも、ひいおじいさんが確かに存在していてくれたからこそ、今のぼくがいるのです。

ぼくは、これまで平和学習をしてきましたが、壮絶な体験談を聞いても、鼻をつんざくような臭いや、地獄絵図など、想像をする事はむずかしかったです。

でも、大事なことは、まずは知ること。知識を持つことが大切だ。広島、長崎で何が起きたのか事実を知り、想像力を働かせて、多くの人々と共有することで、絶対悪である核兵器の目撃者になることができる。と学びました。

八十歳を過ぎて、語り部の活動を始めたおじいさんが、「わしが、これまで話さんかったんは、日本が平和だったからです。平和であればそれでええ。」「それが、時が経つと、平和の大切さがわからんもんが増えてきよった。」「こりゃあいけん。」「戦争のおそろしさ、ひどさを知っとるわしらが伝えていかんといけん。」と思ったわけです。

と言われているのをテレビで見ました。

ぼくはひいおじいさんと重ね合わせて、「ごめんなさい。」と思いました。

ぼくは平和ボケをして、感謝の気持ちもなく、わがままに自分のやりたい放題している事に気付きました。

これからは、ありがとうという感謝と思いやりの心で、日常を大切に過ごそうと思いました。

そして、平和のバトンをしっかり受けとり、これからの

未来へと、平和のバトンを渡していけるように、努力しようと思います。

努力賞

「また会えた時は」

呉市立和庄中学校　藤森　莉子

私は呉市の和庄地区に住んでいます。

幼稚園までは、毎日お母さんに車で送迎をしてもらい登園していました。

六年前、小学校に入学してから一ケ月は、お母さんに送ってもらったり、お兄ちゃんと登校。帰りは、近所の皆と先生と一緒に下校する毎日でした。

四月が終わり、ゴールデンウイークが終わった後、一斉下校がなくなりました。

私の帰る道は、途中から他の人がいなくなるので、初めて一人で歩く日でした。今まで何度も通っている道なのに、一人で歩くのはすごくドキドキして怖くて何度も後ろを振り返りながら歩きました。

ドキドキ、ドキドキ…。ずっと、ドキドキしながらお家に向かって歩いていると、交差点で、一人のおじいさんと出会いました。緑色のベストを着た、そのおじいさんは、私を見てすぐ、

「おかえり。」と優しく言ってくれました。私は知らない大人の人だったので、びっくりして、

「こんにちは。」だけ言い急ぎ足でお家に帰りました。

その日が私と緑色のベストのおじいさんとの出会いの日になりました。

おじいさんは、次の日も、その次の日も、私が下校する時間には、いつも、同じ場所で、同じベストを着て

「おかえり」と言ってくれました。

「おかえり」以外にも、ジャンケンをしてくれたり、空や天気の話をしてくれたり、私の帰る道にはおじいさんが、いてくれる日々が自然になっていました。何年も私達の下校を見守ってくれた、おじいさん。寒い日も、雨の日もずっとあの角で、見守りをしてくれていた、おじいさん。

五年生の秋。おじいさんがいない日がありました。一日目、二日目。最初は、今日は疲れてるのかな。くらいにしかにしか考えてなかったのですが、その日から、今もおじいさんに会えていないです…。

地域の子供達を何年も見守ってくれたベストを着たおじいさん。

おじいさんに会うのが当たり前だった私。当たり前ではなく、地域の為、子供達の為にいてくれたおじいさんに、

もしまた、会える事があるなら、私は「ただいま」と一緒に

「いつも、ありがとう」と言いたいです。

努力賞

「私の大切な四人へ」

竹原市立竹原中学校　寄能　佳苗

私が今、「ありがとう」を伝えたいのは、家族です。家族には今まで、多くの場面で支えられ、助けられてきました。

まず、母は何事に対しても真摯に向き合い、はっきりと言葉を伝えてくれます。例えば、小学三年生から続けているそろばんを、中学生になる際にやめようかどうか悩んだことがありました。

その時、

「やめたいならやめなさい。続けたいなら続けなさい。自分の行動には責任を持ちなさい。」

と言われ、今までつらい時や忙しい時にも練習に参加してきたことを思い出し、自分が満足する結果が出るまでやり切ろうと決意しました。

今でもその言葉を大切にして、練習に励んでいます。

この他にもたくさんの言葉をかけてくれた母に「ありがとう」。

母に対し父は、私が決めたことを応援し、背中を押してくれたり、時には一緒に立ち止まってもくれます。私が友達との関係に悩んだときには、私がどうしたいのか、一緒に悩んでくれて、私が目標をつくったら、「頑張れ」と背中を押してくれました。

父が私のペースに合わせてくれたおかげで、私は歩むべき道を間違えずにくることができました。私を何度も前に進めてくれた父に「ありがとう」。

そして二人の姉は、私の憧れで居続けてくれます。

姉はすごく成績が優秀です。そこもすごいなと思うけど、私はその前の努力の過程も憧れています。

塾にも何年間か通い、部活で疲れていても夜遅くまで教科書を開く姿をずっと見てきました。姉と自分の成績の差に、心が折れそうになることもありました。

でもあの努力している姿を思い出すと、「まだ全然足りてない」と自分の中でゴール地点が出来ました。今でも何事にも努力して成功させようという姿に憧れ続けています。

いつも私を追いかけさせてくれる姉に「ありがとう」。

私は母の言葉で気付き、父の温かい応援で前に進め、姉の姿でゴールを見失うことはありません。こんなにも私にとって「家族」の存在は大きいものなんだと改めて実感しました。

最後に私の大切な四人へ
「ありがとう」。

努力賞

「一番輝いている星にむかって」

竹原市立竹原中学校　新満　萌生

私が感謝を伝えたい人は二番目の兄です。私は、私を合わせて三兄妹になります。私の上に兄が二人います。でも私が感謝を伝えたい人は二番目の兄です。

私は、二番目の兄に会ったことがありません。私以外の、一番上の兄、母さん、父さんは、二番目の兄に会ったことがあります。

二番目の兄は、母さんのお腹の中にいるときから、心臓が弱いことが分かっていました。でも、無事に産まれてきました。だけど産まれてから数ヶ月後に天に召されてしまいました。そして、私が産まれてきました。

私は、小学校のときから、なぜか、つらいことや苦しいことがあると、どうしても二番目の兄のことを思い出してしまいます。一度も会ったことがないけれど、つらいことや苦しいことがあったときに思い出すと、何も聞こえないし、どこにいるかも分からないけれど、励ましてくれている気がするので、ずっと二番目の兄に心の中で相談するようになりました。

ある日、私が今までで一番落ち込んだときに、いつものように心の中で相談というか話しているときに、なにかが、私のほっぺたを通りました。なにかなと思って鏡で見ると、なんと私の目には涙が溢れていました。それはまるで、二番目の兄が「泣いてもいいんだよ」と言ってくれたような感じがして、涙がさらにボロボロ溢れてきました。

私は、二番目の兄が私の隣にいて、あたたかい目で私を見守ってくれているような気がしました。それなのに私は二番目の兄に「ありがとう」このたった五文字が言えていませんでした。

相談は五文字以上喋っているのに、このたった五文字が私にとっては言いづらいというか、言いたくても言えなかった、恥ずかしい言葉だったんだなと、改めて思いました。でも、二番目の兄にこう伝えたいと思います。

「いつも私の相談にのってくれて支えてくれてありがとう」

「これからも私、いや私たちを見守っていてください。」

「私も毎日あなたを見ています。一番輝いている星を。」

努力賞

「地域の方々へ」

竹原市立竹原中学校　友岡　美優

私は、歩いて登下校をするときに心がけていることがあります。それは、地域の方に自分から声をかけたり、挨拶したりする事です。

「人と話すのが得意ではない」という自分の欠点に少しでも向き合い、克服していきたいと思ったのが、行動のきっかけになっています。それに挨拶が返ってくるとすごく心があたたまるからでもあります。

中学校の三年間、この挨拶を続けられたのは、他でもない挨拶を笑顔で返してくださる地域の方がいてくれたからだと思います。私は、地域の方々に感謝を伝えたいです。

登校時は、朝というのもあり、人と出会うことがなかなかありません。そのため、人の姿が目に入ると少し緊張します。人見知りなせいで、初めて会った人や、あまり話したことのない人の前だと、どうしても緊張してしまうのです。

さらに、相手はほとんどの場合大人の方です。(朝から話しかけられて、相手は不機嫌になってしまうだろうか…。でも、素通りをしてしまうのも良くない…。)と様々な事を考え、葛藤した後に勇気を降りしぼって

「おはようございます！」

と声をかけます。聞こえるけれど大きすぎない声のボリュームを意識し、固くない笑顔で挨拶をするのが私のモットーです。すると、

「おはよう、いってらっしゃい。」

とあたたかな言葉が返ってきました。相手が反応してくれるだけでも、とてもホッとしますし、自分に自信が出て、今日も頑張ろうと思えます。

下校時は、登校時に比べると大分、人と会う回数が多いです。学校での疲れもありますが、家と学校の距離が結構離れており、挨拶に少し覇気が無くなってしまうのがとても申し訳ないです。それでも、

「おかえりなさい。気をつけてね。」

と笑顔で返してくださる地域の方々には、感謝してもしきれません。

いつもどんな私の挨拶も受け取って、返して、さらには気遣いの言葉もかけてくださって、本当にありがとうございます。

夏には暑さが和らぎ、冬は寒さを忘れられるほど、挨拶を返していただけるのはとても嬉しいです。

これからは私が、地域の方々に挨拶を通して、元気を与えられるよう努力していきたいと思います。

努力賞

「生まれてきてくれてありがとう」

竹原市立竹原中学校　福田　颯

昨年の七月、新たな命が誕生しました。

「生まれてきてくれてありがとう。」という一言だけ伝えたくなりました。

だけどまだ一歳になったばかりだから伝えることはできないまま、今も伝えたくてうずうずしています。

とてもかわいくて、とても用心深い存在です。だからこそ、まだ伝えることが出来ない今、態度や行動なら、目で見て少しばかりは理解してくれると思い、毎日めんどうを見ています。

例えば、泣きそうになったら、「だっこをしてほしいのか。」「何か物を食べたいのか。」という視点から、自分が合わせてあげて、物事にうつしています。ほかには、「どうしたら喜んでくれたりするのか。」や「どうしたら笑ってくれるのか。」ということを毎日、時間があるときは、考えて寄り添うようにしています。

だけど、どんなにつらいことや悲しいことがあっても、この笑顔を見れば元気がでて、どんなことにも前向きに捉えて、明日も頑張ろうという気になれます。だからこの僕にプラスのことをしてくれるのは、とてもうれしいことだから、なんでもしてあげたくなります。

まだまだ明日、一週間後、一ヵ月後、一年後とつぎへつぎへと前に伝えたいことがある限り、僕の気持ちは、いつも感謝しかありません。

だから、いろんな事を教えたり、いろんなことを一緒に行ったりすることを丁寧に楽しくすることを心がけ、いつも気持ちは一緒です。僕が兄だからできることを全力でやって、とても将来への期待が高まり、毎日が楽しく、楽しみで、うれしいことです。まさに僕の中でのかわいい天使のような存在であり、かけがえのない存在であります。

だから今は、しっかりと何も分かっていないし、まだしっかりとした一緒のようにできる状況じゃないからこそ、今がふんばりどきだと思いました。

だからこそ神様からの命と、そしてこうして、僕の兄弟として生まれてきてくれたことに感謝して、伝えられることができるようになったときに、「生まれてきてくれてありがとう。」と伝えて、しっかりと、「ありがとう。」「ありがとう。」と伝えたいと思いました。

努力賞

「私の姉」

竹原市立竹原中学校　藤田　真奈

私が今、ありがとうを伝えたい人は、私の姉です。

私には一つ年上の姉がいます。小学生の時までは友達のような存在で、毎日楽しく過ごしていました。だけど姉は中学校を受験することを決めていました。

私は、姉が中学校に行っても朝、家を出て、夕方ごろに家に帰宅してくるという一般的な生活をするのだと思っていました。でも、姉が行くことになったところは全員が寮の学校でした。

姉が行ってしまってからは、とてもさみしい日々が続きました。寝る時にいつも隣にいた姉がいない、テレビを見ていっしょに笑っていた姉がいない。涙が出てしまう日もありました。

それを知った姉は、一ヵ月に二回くらいは帰って来てくれるようになりました。帰って来た時は買い物へ行ったり、たくさん話をしたりしました。でも、また寮に帰ったら、さみしい日々になると思うと暗い表情になってしまいます。すると、姉が

「また再来週も帰って来るけん、真奈もがんばれ！」

と応援してくれました。そして、しっかりがんばろうという気持ちになることができました。

姉が寮に戻ったら、毎晩のように電話をかけてきてくれて、とてもうれしい気持ちになっていました。

日がたっていくうちに姉が家にいないのも慣れてきて、あまりさみしくなくなってきました。だけど、長い夏休みなどで帰って来てくれると、とてもうれしいです。土・日に帰って来る時より長い時間いっしょにいられるからです。

今、私がさみしい思いをせず、生活できているのは姉がたくさん応援してくれたからです。だから、次は私が倍、姉のことを応援しようと思いました。

いつもは恥ずかしくて言うことができないけれど、言いたいことがあります。

「いつも優しくしてくれてありがとう。」

「本当に真央ちゃんがお姉ちゃんで良かったよ。」

「真央ちゃんは真奈の自慢のお姉ちゃんだよ。」

努力賞

「一番大切な人へ」

竹原市立竹原中学校　松岡　心愛

「お母さん、いつもありがとう。」

毎日思っているはずなのに、なかなか伝えることができません。そんな私の心を動かす出来事がありました。

二千二十三年五月十四日、今日は母の日です。私は今日こそは感謝の気持ちを伝えようと心に決めていました。

私は母の日の三週間前に、お母さんは何をもらったら喜ぶんだろうと考えた結果、ミトンをプレゼントすることにしました。私はお母さんが熱い料理を運ぶとき、ふきんでお皿をつかんで、

「熱い、熱い！」

と言っている姿を何度も見てきたからです。

私はさっそく、貯金してためたお金をもって、ミトンを買いに行きました。たくさんの種類があってとても悩んだ結果、お母さんのように優しい色の、ベージュのミトンを買いました。

私は急いで家に帰り、ベージュのミトンをきれいに包装して、

「お母さん、いつもありがとう。」

と伝えると決めました。

そしていよいよ母の日になりました。しかし、なんだか急に感謝を伝えるのが照れくさくなり、何度も自分の部屋にプレゼントをとりにいって、渡しに行こうと思ってもやっぱり行けなくて、結局次の日になってしまい、渡せませんでした。私は母の日の夜、布団に寝転がって、なんで私は感謝の気持ちも伝えられないのだろうと、自分をとても恨みました。

母の日から数日たった夜、私はお母さんと喧嘩しました。理由は、私が前の日にも挨拶をしなさいと言われたのに、今日も私は言わなかったからです。その時にお母さんに言われた一言がありました。

「ごめんねとありがとうが言えない人は、人間失格。」

です。

私はこの一言を言われた時、母の日の出来事を思い出して、私は変わらないとやばいなと強く思いました。

そこで翌日、私は渡せなかったベージュのミトンをごめんねとあいがとうの意味を込めて、やっと渡すことができました。ちゃんと

「お母さん、いつもありがとう。」
と伝えることができた私は、とても嬉しい気持ちになってスッキリしました。
お母さんのあの一言がなかったら、私は変われていなかったと思います。その他にも、いつもおいしいご飯を作ってくれて、私をいつも笑顔にしてくれて、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。
最後にお母さんに伝えたいことがあります。
「改めてお母さん、いつもありがとう。」
「一人で頑張りすぎないで、たまには私にも頼ってね。」

努力賞

「宇宙一優しい兄」

竹原市立竹原中学校　水野　凌太

「は？なんだお前。」

この一言で僕は救われた。

小学五年生のとき、僕は仲があまり良くない同級生に、身体のことで悪口を言われた。その時は丁度、下校のときで、兄と一緒だったので助かった。同級生が悪口を言った瞬間、兄が同級生を睨みつけながら

「は？なんだお前。」

と言ってくれて、この一言でその悪口が吹っ飛びました。

また、学校外でも感謝していることはたくさんあります。僕が幼稚園に行きたくなくて泣いた次の日に、僕が好きで欲しいと言っていたおもちゃを兄が買ってくれて、

「もう泣いたらダメよ。元気出せよ。」

と言ってくれました。その日から毎日泣かずに幼稚園に行けるようになりました。

他にも、小学校に入ってから僕の大好きな野球の相手をしてくれたり、親が救急車で運ばれて一人で泣いていた時もずっとそばにいてくれて、

「大丈夫よ。絶対帰ってくるけん。」

と慰めてくれたりしました。

今でも兄は僕と遊んでくれたり、他愛のない話をして、一緒に笑ってくれます。

そんな優しい兄ですが、テストの点が悪かったり、人に迷惑をかけることをしたときには、とても厳しく叱ってきます。これも僕の将来を思っての行動だと思います。

しかし、叱った後に僕が落ち込むことを知って、叱った後は必ず楽しく面白い話をして笑わせてくれます。そんな優しく、厳しい兄がとても大好きです。

私は中学二年生で十三歳です。この十三年間の中で私は家族や友人など、たくさんの人々に支えられてきました。その度に言えなかった

「ありがとう」

という言葉がいくつもあります。今まで言えなかった分の

「ありがとう」

という言葉をこれからの人生でたくさん言おうと思いました。

家族にこの話をすると

「そうじゃね、人に感謝することで言われる側は、とても

うれしい気持ちになって、また、人の手助けをしようと思うし、言った側も相手が笑顔になって、喜んだらうれしいからね。」

と言っていました。

父さん、母さん、兄ちゃん、この話を聞いてくれてありがとう。

この作文を読んでくれた方々本当にありがとうございます。

努力賞

「普段居ないからわかったこと」

竹原市立忠海学園(中学校)　倉岡　心桜

私は、正直父が苦手でした。ちょっかいをかけてきたり、「勉強しろ」と説教をされたりして、よく喧嘩をしていました。しかし、どんなに悪いことをしても、私の言い分を聞き、それから父の意見を口にするところは尊敬していました。

そんな父は、三年前から単身赴任をしています。父が転勤になり、単身赴任になると聞いたときは、正直、寂しい気持ちになりました。

父と別々に生活するようになってしばらく経った頃、友達と喧嘩をしました。学校に行っても楽しくないし、一人で不貞腐れていました。母に相談しても、

「よく喧嘩するねえ。少しは我慢することを覚えなさい。」

と言われました。

そんな時でした。突然、夜に父から電話がかかってきました。

「最近、学校どう？」

と聞かれました。相談したい気持ちはありましたが、離れて暮らしている父に心配をかけたくないという思いから、

「なんもない。」

としか言えませんでした。父は、

「はいよ。勉強も頑張ってね。」

と言い、姉たちと話してから電話を切りました。

次の日、姉に

「学校でなんかあった？」

と聞かれました。姉とは同じ学校であったことから、隠せるはずもなく、すべてを話すことにしました。最後に姉が口にした言葉は、

「親って意外と気付いとるもんなんよ。じゃけん、思っとることは、ちゃんと言いんさいね。」

でした。

私は姉に言われた言葉が胸にささり、父に話すことにしました。すると父は、

「だと思ったよ。辛かったね。」

と、私がうまく言葉にできなくても、最後まで時間をかけて、聞いてくれました。父に共感してもらえたことで、少し気持ちが楽になりました。父に、

「心桜も自分の悪いところに気付けたのは、すごいと思う

よ。その気持ちをちゃんと相手に伝えることを約束してね。」と言われ、次の日に友達と仲直りすることができました。

父は休日も、仕事ばかりして私たちのことなんて見ていないと思っていました。単身赴任をきっかけに離れて生活していても、私の変化に気付いてくれて、改めて父の凄さに気付くことができました。

「パパ、ありがとう。」

「私もパパのこと、応援しています。」

努力賞

「お父さんへ「ありがとう」」

東広島市立松賀中学校　小林　千彩希

私がありがとうを伝えたいのは大好きなお父さんです。十四年分の「ありがとう」をここで伝えます。

お父さんへ

まず、十四年間ありがとう。お母さんが他界して今年で十一年。やりたいことさせてくれて、応援してくれて、励ましてくれてありがとう。

させてくれてありがとう。

お父さんには，たくさんのことをさせてもらいました。バレーボールの習い事ややりたかった部活、私の好きなことをやれたのはお父さんのおかげです。そのおかげで、何かに取り組むことの楽しさを知ることができました。でも、その楽しさの反面たくさんの苦労をかけてきました。

朝早くからの送迎や毎日のお弁当作り、大変なことばっかりだったけど、あたり前のようにしてくれたのがうれしかったです。お弁当すごくおいしかったよ。好きなことをさせてくれてありがとう。

応援してくれてありがとう。

朝早くから会場へ来て大きな声で応援してくれて、少し恥ずかしかったけど本当はすごくうれしかったよ。何事も成功したときには、「すごいじゃん！」と褒めてくれて、また頑張ろうと思えるようになったのはお父さんのおかげです。

小さい頃から憧れだった看護師になる夢も否定せず、「いいじゃん」と言ってくれたあの笑顔がずっと忘れられません。夢を絶対に叶えてみせます。どんな時でも全力で応援してくれてありがとう。

励ましてくれてありがとう。

部活がしんどくてやめたいと思った時、友達作りが苦手で苦しかった時、テストで良い結果が出せなくて悔しかった時、「大丈夫よ」と言ってくれたおかげでたくさん救われました。どんなにしんどくて、辛くてもお父さんの言葉で頑張ることができました。今ではたくさんの友達と楽しい学校生活が送れています。いいことはたくさん褒めてくれて、辛い時は慰めてくれて、楽しい世界を教えてくれてありがとう。

優しくて、時に厳しいお父さんのおかげで、私は強くな

ることができました。お父さんは私に、自分が「やる」と決めたことは絶対に最後まで諦めずにやりなさい。と教えてくれました。

そんなお父さんからの教えで最後まで諦めず、挑戦し続けることが少しずつできるようになりました。努力すること、自分で決めたことの責任を果たすことの大切さ、これから生きていくために必要なことを教えてくれて、本当にありがとう。

ここまで私が成長できたのは、間違いなくお父さんのおかげです。お父さんには感謝してもしきれません。だから、必ず夢を叶えて堂々と「ありがとう！」と言えるようになります。それまでたくさん頑張るから見守っていてください。お父さん、本当に大好きです。

千彩希より

努力賞

「大好きなおじいちゃん」

東広島市立松賀中学校　冨原　魁二

僕はおいしいおじいちゃんのお米が大好きです。

なぜかと言うと、おじいちゃんとみんなで作ることは、僕にとって楽しい時間だからです。楽しいからみんな笑顔になり、僕も、もっと笑顔になります。

おじいちゃんの笑顔を見るとみんないい気分になります。

僕は食べる事が好きなので、おいしいお米を食べられてうれしいです。

おじいちゃんは、お米を作るのにいろいろ工夫をしていて、農薬もほとんど使っていません。体にやさしいお米です。

僕はできるだけお手伝いに行っています。四月下旬に種まき、五月中旬に田植え、九月ごろ稲かり、そして、もみすりの時に家族で手伝いに行っています。僕ができる事は少ないですが、これからもっと力が強くなって、お父さんみたいに手伝いができるようになりたいです。

手伝いに行くと、

「みんなありがとう。」

と、おじいちゃんが言ってくれます。

おいしいお米なので、そのままご飯だけで食べてもおいしいです。おかずと一緒に食べても、もちろんおいしいです。

小学校の時に社会で米作りについて学びました。米作りはとても大変という事を知りました。おじいちゃん、おばあちゃんはそれを何年も何年もしてくれています。そして、いつも僕たちに笑顔でお米を分けてくれます。

お手伝いは、今は少ししかできる事がありません。しかし、いつも二人共喜んでくれます。

これからはもっと、もっと手伝える事を見つけて、おじいちゃん、おばあちゃんの助けになりたいです。

いつもやさしいおじいちゃん、いつか

「僕にまかせて。」

と言えるようにがんばります。どうぞいつまでも元気でいて下さい。

これからもどうぞ宜しくお願いします。

努力賞

「恩返し」

東広島市立松賀中学校　馬場　めぐみ

私は、母子家庭で私とお母さんの二人で暮らしています。お母さんは土日もいつも働いています。一人で家にいることが多く寂しさはあります。だけど、たまに休むことがあるので、色んな所に連れて行ってくれます。

水族館や遊園地、コストコや、東京など、たくさんの思い出があります。フルーツなど色んな物を食べさせてくれたり、欲しい物も買ってくれます。我慢することもあります。それは、お母さんが苦労して仕事をして、私を一人で頑張って育ててくれているからです。でも、私は我慢が嫌いってわけではありません。むしろ必要なんだと思います。

私は、お母さんが仕事から帰ってきた時にチャーハンを作りました。そしたら、お母さんはとても喜んでくれました。私はとてもうれしかったです。洗濯機を干したり取り込んだり、お手伝いをします。これからもたくさんお手伝いして、お母さんがしっかり休めるように、少しでも負担を減らせるようにしたいです。

お母さんとの思い出はたくさんあります。一緒にディズニーへ行ったりユニバに行ったり、これらも全部楽しい思い出です。

でも、私にとっては、一緒に寝たりご飯食べたりテレビを見たりするなにげない日常も、大切な楽しい思い出です。これからもたくさんの思い出をつくっていって、一日一日を大事に過ごしていきたいです。

お母さんとケンカすることはたくさんあるけど、すぐ仲直りします。私はお母さん大好きです。今、とっても幸せです。私にとって最高のお母さんです。一番のお母さんです。大事な家族です。

いつも私を支えてくれました。つぎは、私がお母さんを支えるので長生きして欲しいということと、感謝の気持ちをこれからたくさん伝えたいです。

「いつもありがとう。」

「私を一番に考えて、しかって支えてくれてありがとう。」

「たくさん恩返しして、たくさんの思い出をつくろうね。」

そう伝えたいです。

努力賞

「私を認めてくれる人」

東広島市立松賀中学校　村山　花歩

私は中学生になって新しい環境の変化で、体調が悪い日が多くありました。そんな中、私の家族は色々な病院に連れて行ってくれたりしました。

中学一年生のある日、その日も朝体調が悪く寝ていました。すると、「花歩、昼から出かけようか。」と父が私に言いました。その時期は、朝体調が悪く昼～夕方で治ることが多かったので、気分転換に外へ連れ出してくれたのです。

車内、何か聞いてくるのだろうかと不安だったけれど、父は何にも聞いてきませんでした。しばらくして私が学校の話を少しずつ話し出すと、相づち打つだけで、その話に対して何も口出ししてきませんでした。私は、すごく嬉しくてなんだか安心できて、父の姿がいつもより少しかっこよく見えました。

家ではうまく話せない気持ちがあって、普通だったら気にしないのかもしれないことを気にしている自分がいて、なぜか分からないけれど「しんどい」と思う自分がいて、そんな自分がいやだと思っていた時期でした。けれど、父は何にも否定せずに、ただ話を聞いてくれて「私」を認めてくれているようでした。

目的地について、車を出るとそこは空港の近くのカフェがある所でした。カフェで一緒にパンケーキを食べてゆっくり過ごしました。何かしようとしてくれている父の気持ちが伝わってきて、すごく明るい気持ちになれました。

中学三年生になった今でも、その日のことが忘れられないぐらい記憶に残っています。今もしんどくなった時、このことを思い出して「大丈夫。自分を認めてくれる人いる。」と思えます。そして、自分が嫌いにならずに過ごせています。

父は、とてもかっこいい人です。家族でいる時は、いつもふざけていたり、お酒を飲んで絡んできたりします。だけど、私が不安を抱えている時、二人でどこかへ連れて行ってくれます。私の体がしんどい時、ずっと気にかけていてくれます。何も言わずに私の話を聞いてくれます。自分の嫌な「私」を見せても認めてくれます。普段は恥ずかしくて言えないけれど、私はそんな父が大好きで自慢の父です。

「いつも私の話を聞いてくれてありがとう。」
『私』を認めてくれてありがとう。」
そう伝えたいです。

努力賞

「両親に「ありがとう」」

広島県立広島叡智学園（中学校）　浅野　愛

私は今年から寮生活が始まった。私が受験をしたいと言い出した小学五年生の秋、両親はよろこんで協力してくれた。まだ志望する学校が決まっていなかった時も、親身になって相談に乗ってくれた。いつも家事と仕事を両立してくれるお母さん、夜遅くまで働いて支えてくれるお父さんと、少なくとも後六年は一緒にいられると思っていた。

小学六年生の初めごろ、現在通っている叡智学園の存在を知った。まだ行きたい学校が決まっていなかったし、ＩＢのカリキュラムで、他と違って面白そうだと思い、受験してみようということになった。

二回あった受験が終わって、冬休みに入り、他の学校の受験に向けた勉強が始まる中、通っていた受験対策の塾の先生に質問された。

「浅野さんはどこの学校に行こうと思っているの。」

その時になっても明確な志望校を決めていなかったが、かなり気になっていた叡智学園と伝えた。

家に帰って学校の概要について調べてみると、みるみるうちに引き込まれ、この学校に通いたいと思うようになった。合格発表の日に結果を確認し合格したと喜び、この学校に行きたいと親に伝えた。すると、二つ返事の「いいね。」という声は聞けなかった。

お父さんが、

「愛の気持ちは尊重するけど、後六年ぐらいは一緒にすごせると思ってたな。」

と言っていたと、お母さんに聞くと、泣きそうになった。

最終的に私の気持ちを尊重してくれて、入学願書を出したあとに、どうしてお母さんは賛成してくれたのか問うと、

「最初はもちろん本人の気持ちを尊重しようと決めていたけど、もちろん愛が家を出ていってしまうのはさみしいよ。」

と、教えてくれた。

今、寮生活が始まって四ヶ月経って両親には数え切れないくらいありがとうを伝えたい。

いつも家事をしてくれてありがとう。わがままも怒らずに受け入れてくれてありがとう。名前の「愛」という字のように愛してくれて、ありがとう。育ててくれてありがとう……。

親元を離れて生活をすることで、両親に会いたいときに

会えない寂しさを経験しました。そして、今まであたり前だと思っていたことは、全然あたり前じゃないんだと気付く事ができました。お父さん、お母さんと一緒に居ることが出来るときにいつも思います。そして、これからは伝えていきたいと思います。

「お父さん、お母さん、ありがとう。」

努力賞

「感謝の難しさ」

広島県立広島中学校　今川　奏佑

みなさんは普段、生活している中で感謝したいと思ったことはありますか。感謝したくても恥ずかしくてできないことはあると思います。僕も感謝を伝えるのは難しいと感じることはあります。ですが、今は人に感謝を伝えようと努力しています。それは、印象に残る出来事があったからです。

僕は普段、通学で自転車を使っているので、駅の近くにある駐輪場を使っています。駐輪場は駅を利用する多くの人が使っているので、朝の通勤・通学の時間帯や、夕方の帰宅の時間帯は、よく混んでいます。混んでいるときに自転車を取り出すのに手こずると、周りの人に迷惑をかけてしまうと思い、いつもは速やかに自転車を取り出していました。

ところが、その日は自転車を倒してしまい、取り出すのに手こずってしまいました。また荷物が多く、焦ってしまったのもあり、余計に時間がかかってしまいました。これ以上、周りに迷惑をかけられないと思ったとき、通りすがりの人が取り出すのを手伝ってくれました。自分でどうにかするしかないと思っていたので、突然のことに戸惑いました。

また、突然のことだったので迷惑をかけていると思い、謝るだけで感謝を伝えることができませんでした。今ふり返ってみると、謝るよりも先に感謝を伝えるべきだったと思いました。それまで面識はなく、顔もあまり覚えてないので、あのときに感謝を伝えておけばよかったと、今でも後悔しています。それからは、どのようなことでも、まずは感謝を伝えようと努力しています。

この出来事を通して感謝を伝えることの大切さを知りました。今回の出来事のように自分が迷惑をかけているように思っても、手伝ってもらったり助けてもらったりしたときは、最初に、感謝を伝えることが大切だと思います。

感謝を伝えるのは恥ずかしかったり戸惑ったりして、人によっては難しいことだと思います。ですが、感謝を伝えようと意識すればきっとできると思います。また感謝を伝えれば自分も相手もいい気分になると思います。そのため、これからも人に感謝を伝えようと努力していきたいと思います。

努力賞

「人生を変えた『有り難う』」

広島県立広島中学校　髙見　悠華

昔の私は、初めて会う人にはあまり自分から話しかけず、仲の良い人としか関わらない性格でした。

気分屋で泣き虫で、必要最低限のことしか話さない日もあれば、ずっとへらへらしている日もありました。今と比べてみると変わらないところも多々ありますが、確実に一つは成長していることがあると思います。

それは、「自分から話さない」という性格です。昔の私と比べると話したことがない人でも自分から話しに行くことが増えました。これは、長い人生で見ても、大きく成長したことだと思います。

そんな私の人生を変えたきっかけは小学五、六年の担任の先生との出会いです。当時の私は「ありがとう」というのは全人類に言われることなので当たり前だと思っていました。しかし、その先生は私とは違い、ある参観日の時に、

「ありがとうは有り難うと書きます。難しいことをするという意味です。この対になるものは当たり前ですね。」

とおっしゃっていました。私はその瞬間、ありがとうと言われるのは、当たり前ではなく、特別なことだと気づかされました。それ以降、私は「有り難う」を言う、言われるのが好きになりました。

そのタイミングと同時に、私はクラス替えの時に久しぶりに会った友達と話してお互いに

「話しかけてくれてありがとう」

と言いあったのを思い出しました。

言った直後だと特に気にも止めていなかったけれど、今考え直すとお互いに勇気をだして緊張しながら話していたんだと思います。

それから私は、友達の時のように「ありがとう」を言い合いたいためだけに、自ら話しに行くことが多くなっていました。私の性格と人生はこのたった五文字で成長したと思います。そして、「有り難う」を伝えると私自身も変われたし、周りともっと楽しく明るい生活を送れるようになりました。

しかし、私にはまだ伝えられてない人がいます。それは、あの担任の先生です。ありがとう、に対する見方を変えてくれて有り難う。受験期もずっと支えてくれて有り難う。何にでも真っすぐ向きあってくれて有り難う。

私はたくさんの有り難うを、伝えなければいけません。しかし卒業して一年と半年。私は伝えることがまだできてないです。学校もお互い離れてしまったので機会が大幅に減りました。だけど私は必ず伝えたいです。また、次からは、すぐに有り難うを言える人になりたいです。

「有り難う」というのは人生を共に歩む言葉だと思います。有り難う、と言いたい。それだけで私の性格は変わりました。短い五文字の中には当たり前ではない、すごい力を持つ魔法のようなパワーを持っていると思います。この魔法の「有り難う」を私はこれからの人生でたくさん言っていきたいです。

努力賞

「兄と姉から学んだ感謝の気持ち」

広島県立広島中学校　平田　華暖

私には兄と姉がいます。兄は九つ、年がはなれていて、姉は六つ、年が離れています。そのおかげで、兄からはたくさん勉強を教えてもらい、姉からは洋服やメイクなど色々な知識をもらいました。

しかし、兄は半年以上前に大学での実習のため、ひとり暮らしを始め、姉はあと数ヶ月で就職のため、千葉県に行ってしまいます。

兄がひとり暮らしを始める前、私はいつもと変わらずテレビを見て笑っていました。年末やお盆には会えるから、と兄のことをあまり気にしていませんでした。

その日から一ヶ月くらい経ったある日、数学の分からない問題を放置したまま、テストを受け、今までで最も低い点数をとってしまいました。なぜ分からない問題を放置してしまったのだろうと一日中考え込みました。

私はその時、兄の存在の大きさに気づきました。いつも先生や友達には聞かず、兄の分かりやすい解説を聞き、理解していた私は、「兄に教えてもらおう」「兄に聞こう」が癖になっていたのです。私はこんなにも兄に支えてもらっていたのかと感謝の気持ちと、少し寂しい気持ちになりました。

思い出してみれば、分からない問題を基本的なところから教えてくれたり、図を書いてくれたり、分かりやすく教えてくれた兄には感謝をしなければいけないのに、ひとり暮らしで家を離れるまでちゃんとお礼を言えなかった自分を少し後悔しています。

だから私は姉が遠くへ行ってしまう前に感謝を伝えたいです。

姉にはたくさん迷惑をかけました。ひどい言葉を言ってしまったり、反抗してしまったり。毎回、バイトや学校で忙しいのに、私の前髪を切ってくれたり、服を買ってくれたりしたのに、兄の時のように感謝の言葉を言えずに後悔したくない、そう強く思っています。

感謝の言葉「ありがとう」は、人と人との心の距離を近づけます。人に何かをしてもらうことの日常には、「ありがとう」が欠けています。私は、離れてしまった兄、もうすぐ遠くへ行ってしまう姉へ「ありがとう」という気持ちを伝えようと思います。

身近な人ほど、失ってから大切さや感謝に気づくということを兄と姉から知りました。たとえ、照れくさくても、この五文字だけは伝えたいです。